

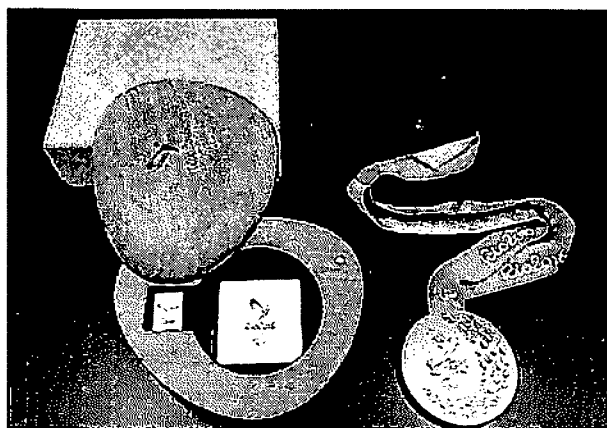
社会的事象同士の関連をとらえ

自らと社会との関わり方について考えることのできる

社会科学習の在り方

～東京オリンピック・パラリンピックに向け

自分たちにできることを考える学習を通して～



佐倉市立佐倉小学校
久保 翔太

1 研究主題

社会的事象同士の関連をとらえ

自らと社会との関わり方について考えることのできる社会科学習の在り方

～東京オリンピック・パラリンピックに向け 自分たちにできることを考える学習を通して～

2 主題設定の理由

(1) 現代社会の要請から

グローバル化の進展に伴い社会は多様性を増し、急速な情報化や技術革新により人々の生活は質的に大きく変化している。そうした社会的な状況を踏まえ、「教育課程企画特別部会 論点整理」では、「予測できない未来に対応するためには、社会の変化に受け身で対処するのではなく、主体的に向き合って関わり合い、その過程を通して、一人一人が自らの可能性を最大限に発揮し、よりよい社会と幸福な人生を自ら創り出していくことが重要である」と述べられている。しかし、現状は課題として、子供たちの「自己肯定感や主体的に学習に取り組む態度、社会参画の意識等が国際的に見て相対的に低いことなど」が挙げられている。

社会科の学習においても、「主体的に社会の形成に参画しようとする態度等の育成や、資料から読み取った情報を基にして社会的事象について考察し表現すること等」について更なる充実が求められている。また、小・中・高を通じた学習の発展を図るため、小学校段階では、「社会的な見方や考え方の育成を一層重視するとともに、世界の国々との関わりや我が国の政治の働きへの関心を高める学習、社会に見られる課題を把握して社会の発展を考える学習」についての指導が重要になってくることも述べられている。

一方、身に付けるべき知識に関しても、「個々の事実に関する知識を習得することだけが学習の最終的な目的ではなく、新たに獲得した知識が既存の知識と関連付けられたり組み合わせられたりしていく過程で、様々な場面で活用される基本的な概念等として体系化されながら身に付いていく」という学習プロセスを経て、学んでいく姿が求められている。

これらのことを受け、本実践では、児童の主体性を引き出す課題設定を行い、学習した社会的事象同士を関連付け、そこに自らがどう関わるかを考え、表現させたいと考えた。

(2) 学習指導要領から

本実践は、学習指導要領第6学年の目標及び内容を受けて設定している。(資料1)

学習指導要領における学習内容は、政治の働きや日本国憲法の考え方、外国の人々の生活の様子や日本の国際交流、国際協力などについて取り上げ、具体的に調べることによって、政治や日本国憲法は国民の生活に大切な働きをしていること、また外国の人々と共に生きていくためには異なる文化や習慣を理解し合うことが大切であることが分かるようにすることである。

これらの学習について、「小学校学習指導要領解説 社会編」では、「児童の関心や地域の実態に応じて、調査活動を取り入れたり資料を活用したりして学習が具体的に展開できるようにすることが大切である」とされている。政治に関する学習や国際交流の様子についての学習は、「ややもすると網羅的、抽象的になりがち」だとされている。本実践では、具体的な事例を元に、内容を具体的に理解できるよう学習を展開していく。

(3) 印教研究主題から

よりよい社会の実現に寄与する「生きる力」を培う社会科学習
～自ら課題をみだし、自らの考えを実現できる児童生徒の育成をめざして～

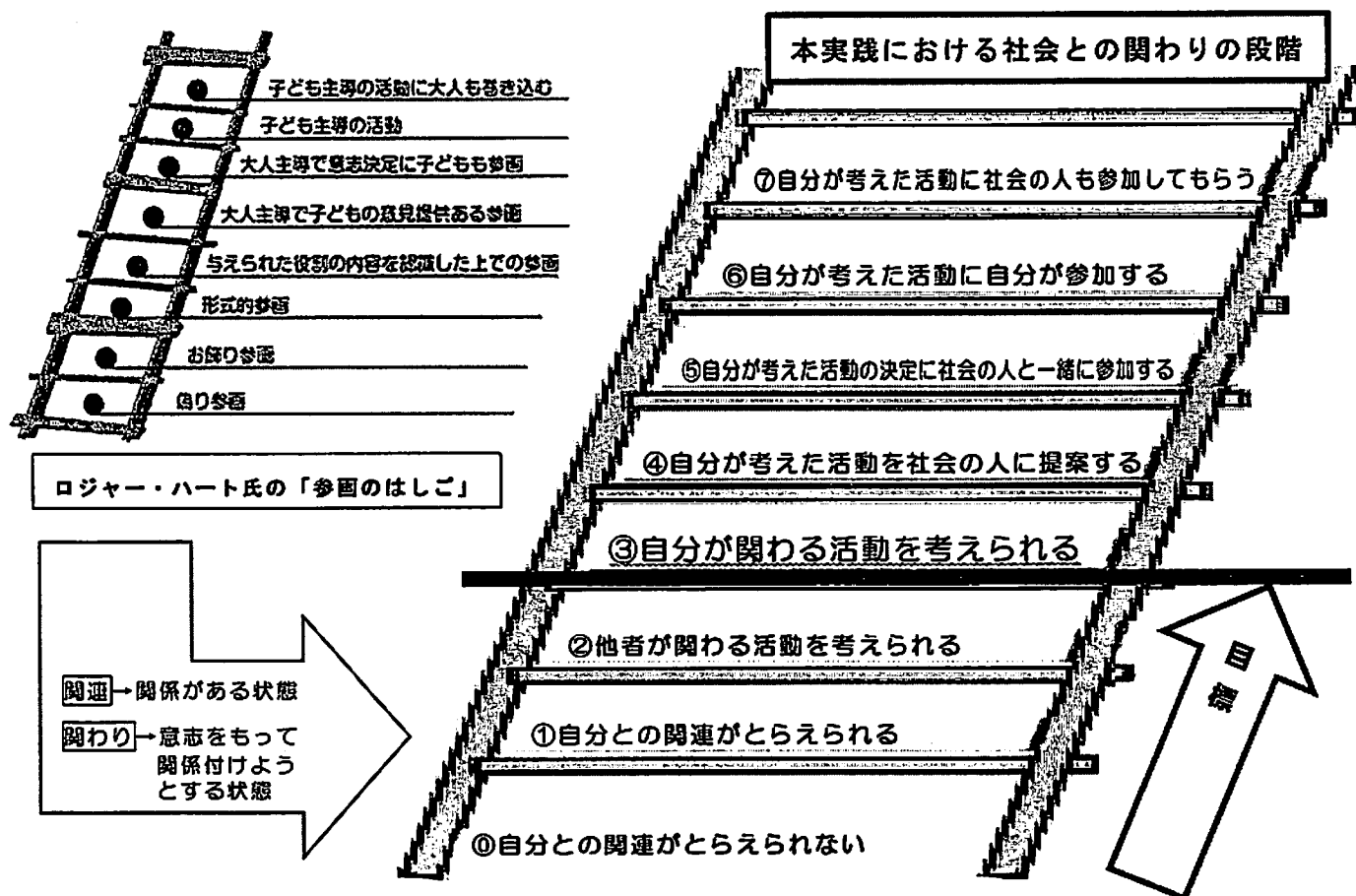
印教研究主題の副題にある「自ら課題をみだし、自らの考えを実現できる」とは、現在の社会の仕組みについて知り、その上で自分たちにできることを考え、行動に移していくことだととらえる。これを受け、本実践では、日本社会全体が大きな関心を寄せる東京オリンピック・パラリンピックを軸に、政治や国際理解、地域教材について学び、それを踏まえてよりよい社会との関わり方を自らのこととして考え、発信していく活動を設定する。こうした学習を通して、児童が主体的に取り組み、学んだことを社会で活用できる汎用的能力を身に付けることにより、主題にある「よりよい社会の実現に寄与する『生きる力』」が培われていくと考える。

(4) 先行研究から

社会的事象同士の関連や自らとの関連を扱った実践はこれまでに何度も行われてきた。今回は、印教研の過去の実践で提起された内容も踏まえ、主題を設定した。

- ・平成26年度 飯田教諭実践 【社会的事象同士の関連をとらえた上でのまとめ方の工夫】
- ・平成28年度 宮川教諭実践 【他の地域教材での、自らとの関連に対する変容の考察】

また、本実践で目指す、児童が自らと社会との関連をとらえ、どう関わることができるかを考えることについて、その段階を、ロジャー・ハート氏の子どもの参画の状態を示した「参画のはしご」を参考にして、私なりに定義し作成した。本実践では、児童の実態や発達段階から、③の自らと社会との関連をとらえ、自分が社会とどう関わっていけるかを考えるという段階まで進むことを目指し、その中で児童がどのような変容をみせるかについても検証していく。



(5) 児童の実態から (6年2組 35名)

本学級の児童は、東京オリンピック・パラリンピックに対しての興味関心が高く、自らと関連があるととらえているものも多い。(資料2) 一方で、国際理解に対しては、そこまでの高い興味関心や自らと関連があるという意識はもっていない。政治に関しては、さらにその傾向が強い。日々、目にしたり、耳にしたりするものであっても、自らと具体的にどういった関連があるのかということをとらえられていないことが分かる。また、自分が住む佐倉に対しては、そのすばらしさを理解し、好きだと感じている児童が多くいる。児童は低学年の頃から、「佐倉学」という佐倉についての学習を積み重ねてきており、それが一つの要因だと考えられる。しかし、佐倉のまちに対して、自分の願いや思いをもち、さらに良くしていきたいという考えをもつ児童の割合は多くない。ましてそのために活動をしている児童はいない。平成28年度に佐倉が北総四都市の一つとして日本遺産に登録されたことも、学習していないためか、ほとんどの児童が知らなかった。

つまり、本学級の児童は、社会に対して受動的に関連をもっているが、自ら関わりをもとうという主体性の発揮という点において、課題があると言える。

社会科の学習においては、児童は社会的事象の特色について調べ、関連をとらえまとめる活動を繰り返し行ってきた。しかし、学習が一部の児童のみによって展開され、特に関連の理解においては大きな個人差が生まれているという課題が見られる。しかも、学習を中心になって進める児童にも、上述したように「自らとの関連」という視点がなく、他者的に社会的事象同士の関連をとらえることに終始してしまっていると言える。

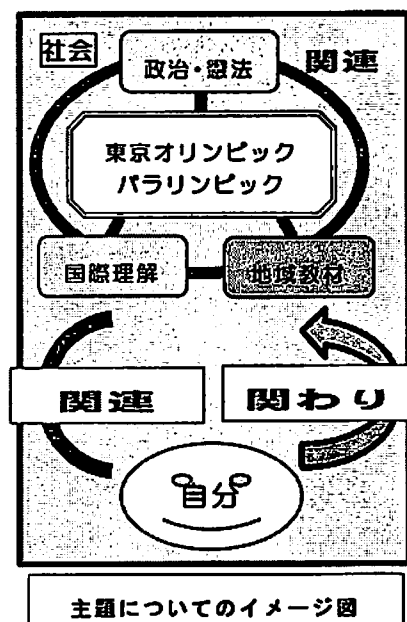
このような実態を受け、本実践では、児童の興味関心の高い東京オリンピック・パラリンピックを用いて、政治、国際理解の学習と関連付けながら進めていき、そこに佐倉の地域教材を取り入れることで、自らと社会との関連もみだし、関わり方を考えていけるようになると考え、本主題を設定した。

3 主題について

(1) 社会的事象同士の関連をとらえるとは

本実践では、以下の2点の意味で定義をした。1点目は、「政治・憲法、国際理解、地域教材等の社会的事象が、それぞれの单元内において他の事象と関連をもっていることを理解する」こと。2点目は、「政治・憲法、国際理解、地域教材等の社会的事象が、他の单元の社会的事象とも関連をもっていることを理解する」ことである。

上述したように、本学級では社会的事象の特色の理解にとどまり、関連を十分にとらえられていない児童が少なくない。社会的事象についての知識や理解が断片的、一面的になることのないよう、互いに理由があり関連し合っているということを理解できることが重要であると考え。本実践では、政治・憲法、国際理解、地域教材等の現代社会についての内容の学習を行う。東京オリンピック・パラリンピックのように、これから先のことについて考えていくには、様々な面から物事をとらえていくことが求められる。そういった意味で、本実践では、社会的事象同士の関連を、单元内だけでなく、单元を越えてとらえていくことが重要であると考えた。



（２）自らと社会との関わり方について考えるとは

先述した社会的事象同士の関連の中に、「自らとの関連」という視点を加えることで、まずは社会と自分が関連をもっているということを理解し、さらにそこから「自分と関連をもつ社会に対して、自分はどうか関わっていけるかということ」を自ら考える」ことだと定義する。

日本青少年研究所が２００９年に行った「中学生・高校生の生活と意識」の調査によると、「私の参加により、社会現象が変えられるかもしれないと思うか」という問いに対し、「そう思う」と答えた中・高校生の割合は４割程度であり、わが国では社会参画に関する意識が他国と比べて低いという結果が示されている。本学級においてもその傾向が見られ、児童の実態（資料２）で述べたように、社会に対して受動的に関連をもち、主体的に関われていない現状がある。しかし、これからの社会を担っていく子供たちが、社会へ自ら関わろうとする意識をもてるようにすることは重要な意義をもつと考える。

４ 教材について

・東京オリンピック・パラリンピック

２０２０年７月２４日から８月９日まで東京で開催される第３２回夏季オリンピック。東京での開催は１９６４年以来５６年ぶり２回目、アジア初の同一都市による複数回開催となる。その情報は、メディア等でも日々取り上げられ、児童も耳にすることが多い。

上述したように、本学級の児童の多くは東京オリンピック・パラリンピックに対しての興味関心が高く、自らと関連があると考えている。児童との実際のつながりとしては、児童が陸上大会や相撲大会等で訪れたことのある岩名運動公園の陸上競技場が、東京大会において、アメリカ陸上チームのキャンプ地として採用されたことがあげられる。これは千葉県教育委員会発行の「夢気球（vol. 53）」に掲載された情報で、児童も確認することができる。また、本校児童の多くが進学する佐倉市立佐倉中学校の７０周年記念式典が昨年度行われた際、リオオリンピックでトライアスロンに参加し、日本人最高位となる１５位に輝いた佐藤優香選手が卒業生として参加したことも、児童にとってオリンピックを身近に感じる要因となり得ると考える。そして、本実践の導入ではリオパラリンピックに参加した選手の話として、千葉県立盲学校教諭の岡村正広さんのビデオインタビューの模様（資料３）を流す。岡村選手は視覚障がい者のマラソン競技で３位に入り、銅メダルを獲得した。このように東京オリンピック・パラリンピックは、実は自分の身近な場所や人を通して、自分の身近に存在しているということに気付けるようにすることで、児童はさらに自分との関連をとらえやすくなると考える。

この先の複数の単元の学習を同一のテーマを軸として進めていくにあたり、どの単元の内容とも関連をとらえやすく、また児童が関心を持って学習に臨めることが重要であると考え、本実践では東京オリンピック・パラリンピックを扱うことが有効であると考えた。

・日本遺産

「日本遺産」とは、地域の歴史的魅力や特色を通じて我が国の文化・伝統を語るストーリーを文化庁が認定するものである。ストーリーを語る上で欠かせない魅力ある有形や無形の様々な文化財群を、地域が主体となって総合的に整備・活用し、国内だけでなく海外へも戦略的に発信していくことにより、地域の活性化を図ることを目的としている。日本遺産に認定されると、認定された当該地域の認知度が高まるとともに、今後、日本遺産を通じた様々な取組を行

うことにより、地域住民のアイデンティティの再確認や地域のブランド化等にも貢献し、ひいては地方創生に大いに資するものとなると考えられている。平成27年度から開始され、現在までに54件が認定されている。東京オリンピック・パラリンピックが開催される2020年までには100件程度認定することを目標としている。

佐倉は「北総四都市江戸紀行・江戸を感じる北総の町並み」の一部として、平成28年度に日本遺産登録された。北総地域は、百万都市江戸に隣接し、関東平野と漁場の太平洋を背景に、利根川の水運と江戸に続く街道を利用して江戸に東国の物産を供給し、江戸のくらしや経済を支えた。こうした中、江戸の文化を取り入れることにより、佐倉は政治・軍事の両面で江戸を支え、学問にも力を入れた城下町という特色ある都市として発展した。佐倉の認定された文化財としては、佐倉城址、武家屋敷群、町並み、祭礼、旧佐倉順天堂、旧堀田邸等がある。

これらの個々の文化財については、佐倉学の中でも取り上げられており、児童は知っている。また、そのほとんどが学区内や学区の隣接地にあるため、目にすることがあり、児童にとってはかなり身近なものだと感じられるであろう。児童が考える佐倉の良さとしても、その名前が多く上げられる。一方、そうしたものが日本遺産登録されたということは、児童やその家族もあまり認知しておらず、学校近くの新都通りという商店街に日本遺産登録を周知する旗が飾られていることには、どの児童も気づいていない。この児童にとって身近な佐倉の文化財が日本遺産に登録されたにも関わらず、認知度が低いということに対して課題意識をもたせることで、本実践の終末で地域へ自ら関わろうと考える契機とできるようにする。

5 研究の目標

公民学習において、東京オリンピック・パラリンピックを軸とした単元構成の工夫をすることにより、自らを取り巻く社会への理解を深め、自らと社会との関わり方について考える力を培う指導法の有効性について、実践を通して明らかにする。

6 研究の内容と方法

【研究内容／研究方法】

- ア 児童が社会的事象同士の関連をとらえることができる指導法／児童の変容の分析
- イ 児童が自らと社会の関連をとらえることができる指導法／児童の変容の分析
- ウ 第6学年の公民学習における地域素材の教材化／人材活用、日本遺産についての調査

7 研究仮説と手立て

【仮説1】

東京オリンピック・パラリンピックを軸として学習過程を工夫すれば、社会的事象同士の関連をとらえることができるようになり、自らを取り巻く社会への理解が深まるだろう。

手立て① 東京オリンピック・パラリンピックを軸として、複数単元を貫く学習問題を設定する。

公民学習の最初に、児童の興味関心の高い東京オリンピック・パラリンピックを扱い、2020年に向けて自分たちにできることを考えるという、複数単元を貫く学習問題を設定する。その後、岡村選手のインタビュー内容を整理し、自分たちにできることを考えるため、政治や国際理解、地域教材についての学習を行っていくことを確認する。これらの学習を、東京オリ

ンピック・パラリンピックと関連づけて進めていくことで、内容が抽象的にならず、具体的な場面に置き換えながら考えることができるようになり、社会的事象同士の関連がとらえやすくなると思われる。また、どの単元でも東京オリンピック・パラリンピックと関連づけて学習を行うため、自分たちにできることを考える際に、学習した様々な面から思考することを通じて、他の単元の社会的事象同士の結びつきにも気付くことが期待できる。

手立て② 単元のまとめにおいて、自らの考えを表現する方法を工夫する。

複数単元をまたいだ実践となるため、単元毎にまとめを行う。その際、学習したことをもとに、東京オリンピック・パラリンピックに向けてできることを考えられるようにするため、内容を整理して、まとめる方法を工夫する。政治・憲法の学習では、東京大会にも関連する、国や地方自治体の社会保障の仕組み等について、思考ツールを用いて情報を整理し、まとめる。国際理解の学習では、2020年に来日することが想定される外国の方の生活や文化について調べたことを、グループで整理しながら模造紙にまとめ、ポスターセッションの形で発表する。終末の地域教材の学習では、それまで学習してきたことを踏まえて、東京オリンピック・パラリンピックに向けて、地元佐倉を国内外の人に知ってもらい、楽しんでもらうために、日本遺産をどう活性化していくかということについて考える。そして、考えたことは「市長への手紙」（資料4）という形で表現し、市役所へ提案する。各単元で学んだことを総合して考えながら手紙を書くことで、単元をこえた社会的事象同士の関連の理解が深まると考える。

【仮説2】

東京オリンピック・パラリンピックに関連する、児童にとって身近な素材を活用すれば、自らと社会の関連をとらえることができるようになり、自らと社会との関わり方について考える力が培われるだろう。

手立て① 各単元において、体験的な学習、地元佐倉と関連のある教材を取り入れる。

児童が自らと社会との関連をとらえることができるようにするため、各単元の学習に見学や体験の活動を取り入れたり、地元佐倉と関連のあるものを取り入れたりする。

まず政治の学習では、学級の児童2名が参加した佐倉市子供議会（資料5）の映像を見せる。地元の議場で行われ、友達が参加した模擬議会の様子を見ることで、市の政治について身近に感じられるようにする。また、国会、最高裁判所の見学を学習の時期に合わせることで、写真や映像で見たものを、実際に行って見たり聞いたりし、体験的に学べるようにする。

次に、国際理解の学習では、東京オリンピック・パラリンピックで、アメリカの陸上チームが佐倉をキャンプ地にすることを取り上げる。児童も陸上大会などで実際に足を運んだことのある地元の競技場に、海外の選手がやってくることを知り、自分たちの近くにオリンピック・パラリンピックが存在しているということを感じられるようにする。

最後に国内外の観光客に向けて、佐倉の地域の一員として、日本遺産をより広く認知してもらい、楽しんでもらうための方法について考える。佐倉のよさをアピールするために、大きな意味をもつ日本遺産を、地元住民もほとんど認知していないという実情をどう改善していくかということについて地域の一員として考えることで、これまで学習してきたことを自らの生活に引き付けて考えることができるようにする。

手立て② 身近な人とのつながりを作る。

社会を作るのは人で、社会を動かすのも人であるため、児童にとって、社会にいる人とのつながりをもつことが、その社会を身近に感じる上で重要であると考えた。そこでまずは、複数単元を貫くオリンピック・パラリンピックを印象的に、身近に感じることができるよう、リオパラリンピック男子マラソン銅メダルの岡村選手にインタビューを行い、その模様をビデオに撮影し、児童に見せる。自分の身近にパラリンピックに出場し、メダルを獲得した選手がいることを知り、さらにインタビューを通じて自分たちにメッセージを送られているということを知ること、児童はオリンピック・パラリンピックが身近に感じられ、2020年の東京大会に自分たちが関わっていきたいという意欲をもてるようになると思われる。

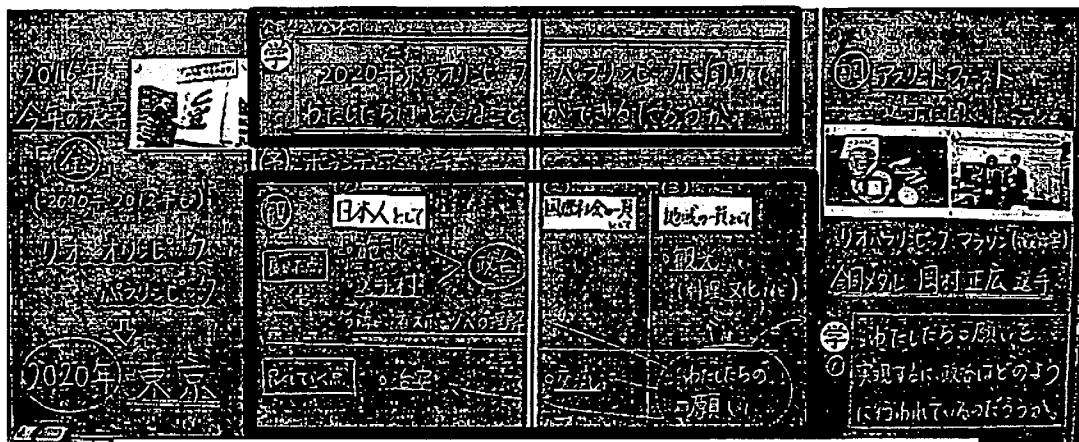
また終末には、日本遺産を活性化する方法について考えたことを、市長へ「市長への手紙」という形で伝える。書いた手紙は市役所の秘書課の方に直接届けることにする。実際に社会を動かしている人たちに向けて自分の意見を出すという活動を行うことで、児童は自分が社会と関わっていけるということを実感できると考える。そして、ひいては「もしかしたら自分たちで社会を変えられるかもしれない。」という意識をもたすことにつながれると考える。

8 仮説の検証と授業の実際

【仮説1】

手立て① 東京オリンピック・パラリンピックを軸として、複数単元を貫く学習問題を設定する。

第1時に東京オリンピック・パラリンピックを取り上げ、複数単元を貫く学習問題を設定した。岡村選手へのインタビュー内容を表にまとめ、これから具体的に調べて考えていく観点として整理し



第1時の板書（上の枠が複数単元を貫く学習問題、下が調べて考えていく観点）

て示したことで、この後の各単元の学習でも、児童は常に東京オリンピック・パラリンピックを意識して学習を進めることができた。それは授業後の振り返りからもわかる。

私は特別オリンピックやパラリンピックに直接できる事は少ないが、自分の地域の活性化や環境を改善することはできると考えた。
オリンピックやパラリンピックに来る人は観光もすると思う。だから土産のあまり知られていない日本遺産なども外国人の人に知ってもらったりすれば、と日本のためにもなる。

2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けて、ぼくたちはポスターを作ったり、パンフレットを作ったり、ソナーも考えた。市役所に提案したり、いろいろなことができた。気分よくできました。前以上に（？）に興味を持つことができたのでよかった。

児童の各授業後の振り返り

オリンピック・パラリンピックという具体的な場面を想定して、政治・憲法、国際理解、地域の各単元の内容について学習したことがわかる。

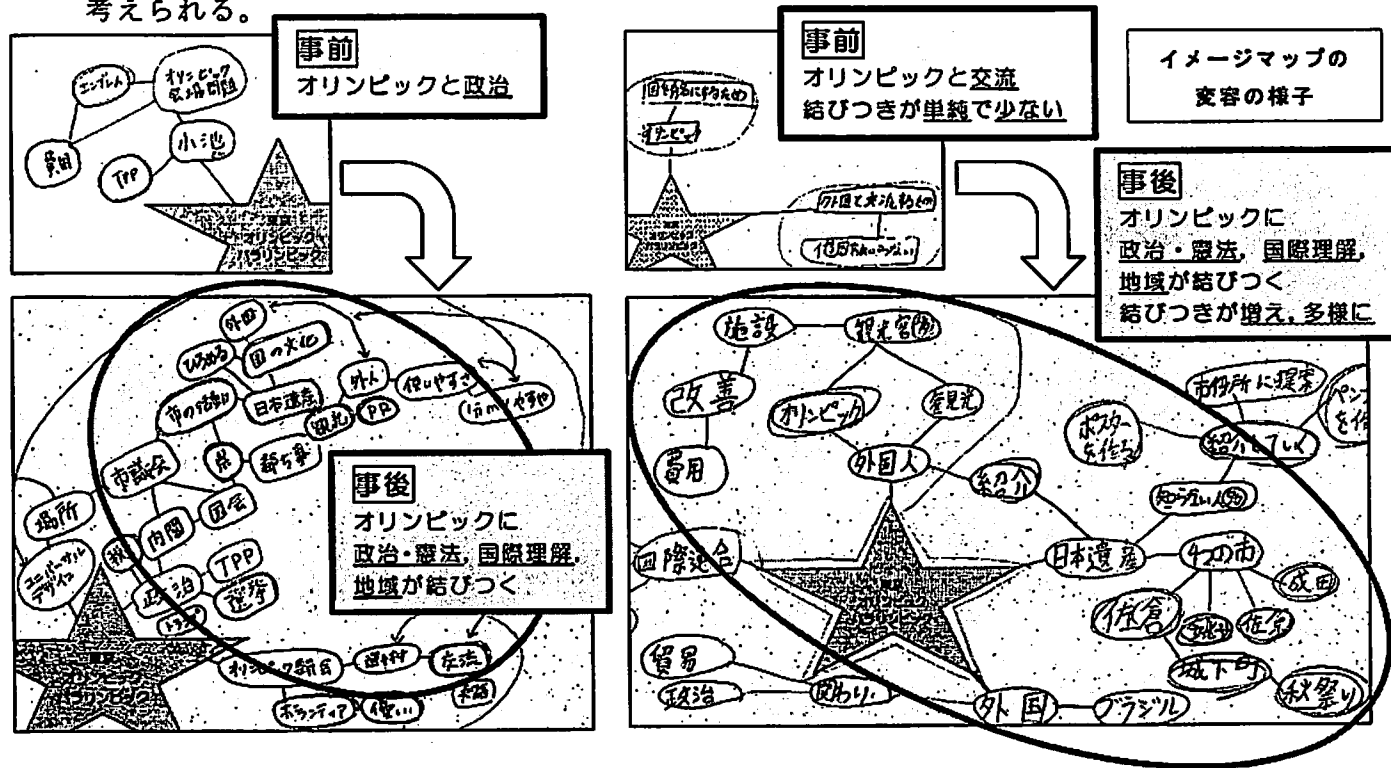
オリンピックやパラリンピックに向けて、私たちはボランティア活動などで外国から来た人たちに交流ができればと思います。ですが、言語もちがうので、少しだけ

イメージマップで社会的事象同士の関連をとらえられた人数と割合

	単元内の関連		他の単元との関連	
	事前	事後	事前	事後
人数	1人	35人	1人	21人
割合	8%	100%	8%	60%

そして、それを元に、各単元の社会的事象同士の関連の理解が進んだと考えられる。事前と事後に書いたイメージマップを比較すると、左表のように「単元内の関連」をみだすことについては、事前では1人だったが、事後には全員の児童ができるようになっていた。これは、東京オリンピック・パラリンピックという具体的な場面を用いて学習したことで、内容が定着し、関連をとらえやすくなったためだと考えられる。

さらに、単元の枠を越えて「他の単元との関連」をとらえることについても、事前では1人の児童だけができていたが、事後には学級全体の60%にあたる21人の児童ができるようになった。これは、東京オリンピック・パラリンピックという教材が、政治・憲法、国際理解、地域教材のどの単元の内容とも関連をとらえやすいものだったため、一つの単元を学習する際にも、具体的な場面を共通項として、他の単元の内容とも関連させやすかったことが要因だと考えられる。

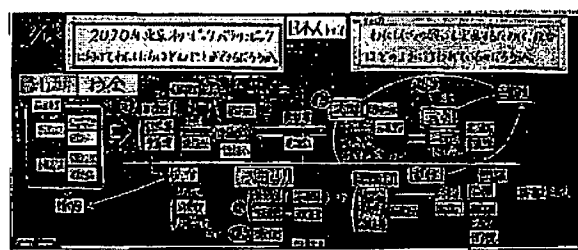


手立て② 単元のまとめにおいて、自らの考えを表現する方法を工夫する。

キーワードが多く出されることが予想された政治・憲法の単元では、思考ツールを用いて情報の整理を行った。初めは3～4人の少人数グループでまとめ、その後学級全体で行った。付箋紙やマグネットシートを操作し、視覚的にとらえやすくしながら考えを発表したため、児童は社会的事象やその関連についての理解を



思考ツールを使って話し合う様子



政治・憲法の学習の板書

深めることができたと考えられる。

- 1人だと思いつかないことがたくさんあったから、黒板の王様でみんながわかる。
- 1人よりみんなでやると、みんながまとめる時間がかかるとわかる。
- みんなの意見をたくさん聞いて、自分もわかる。

児童の授業後の振り返り

国際理解の学習で
作成したポスター



国調べ
発表会
の様子

日本と共通点のある国や日本にはない文化がある国が知れた。他の国の情報を
知って、オリビエに向けて他の交流方法を
考えてやっていきたいと思います。

アンケートでは全員が楽しく学習に取り組めたと答えていた。



自分たちだけでは
実施できないものを
市に提案した。

児童の授業後の振り返り

市役所には、たくさんの窓口があり、私たちなどの市民からの意見などは市民の声という窓口に出すことがわかりました。市役所は、市民の声を聞き、施策をよりよい町づくりにしていくことがわかりました。



「市長への手紙」の内容

「市長への手紙」を秘書課の
方に提出する様子

【仮説2】

手立て① 各単元において、体験的な学習、地元佐倉と関連のある教材を取り入れる。

- 9 -

「自らとの関連があると思う」児童数と割合の変容

項 目	事前	政治・憲法後	国際理解後	事後	変容の見られた児童
②東京オリンピック・パラリンピック	30 (85%)	35 (100%)	35 (100%)	35 (100%)	D児：事前テレビで見るだけだから。 事後授業で調べてみて、自分たちも関わる方法があったから。
④政治	23 (66%)	32 (91%)	33 (94%)	33 (94%)	E児：事前よくわからないから。 事後自分たちも市役所に案を出したりできるから。
⑥世界の他の国	23 (66%)	24 (69%)	34 (97%)	34 (97%)	F児：事前日本で生活しているから。 事後東京オリンピック・パラリンピックは佐倉にも関係があるから。
⑧佐倉のまちや文化	28 (80%)	29 (83%)	32 (91%)	34 (97%)	G児：事前佐倉に生まれたから。 事後自分は毎年、祭りに参加するなど、文化的な行事に参加しているから。

政治・憲法の単元では、子供議会の映像を見たり、国会見学に行ったりして、議会の仕組みや市の制度をより詳しく知ることができ、自分との関連をとらえられるようになったと考える児童が増えた。

政治に対して自分がしたいことが書けている。



子供議会の映像視聴



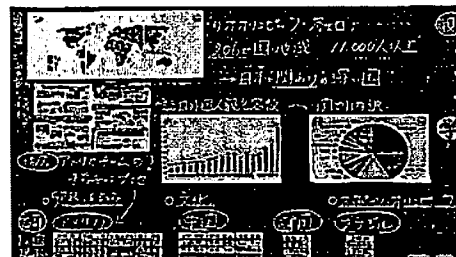
国会議事堂見学

政治について、自分がしたいことが書けている。国会に関わることは、自分たちもできる。自分たちも市役所に案を出したりできる。自分たちも市役所に案を出したりできる。自分たちも市役所に案を出したりできる。

自分たちも市役所に案を出したりできる。自分たちも市役所に案を出したりできる。自分たちも市役所に案を出したりできる。自分たちも市役所に案を出したりできる。自分たちも市役所に案を出したりできる。

児童の授業後の振り返り

国際理解の単元では、東京オリンピック・パラリンピックで、アメリカ陸上チームが佐倉をキャンプ地に予定していることを知り、児童はオリンピック・パラリンピックをさらに身近に感じたようである。また、アメリカ以外の今回調べた3か国についても、先述したように、その際に交流するであろうと考え、自分と関連させてとらえていることがわかる。



国際理解の板書

児童の授業後の振り返り

自分も国際理解する必要があると感じている。

佐倉がアメリカチームの事前キャンプ地だったことは驚いた。オリンピックは、中国で開かれたことは驚いた。東京オリンピックに向けて、言葉や衣食住について知っておくのは、大切だと思いました。

私は、(文法)を学ぶにあたり、相手の事を知らないといけない。自分たちの事を伝えないといけない。佐倉のキャンプ地(アメリカ)チームが来る事もアメリカの事を知らないといけない。日本に観光に来る国で1番

最後の地域教材の単元では、佐倉の日本遺産について知ることによって、児童は国内外の人により広く知ってもらいたいと思うようになり、その方法を考えることになった。その際、「自分たちにできること」だけでなく、政治の単元で学習した「市長への手紙」に自分たちも意見を書き市に提案したいという児童の意見をもとに、「市に提案してみる」の観点も加え考えさせた。どの児童も、自分にできることとこれまでの学習を関連させて考え、提案することができた。

児童の授業後の振り返り

佐倉が日本遺産に選ばれるのは、自分たちもできること。自分たちも市役所に案を出したりできる。自分たちも市役所に案を出したりできる。自分たちも市役所に案を出したりできる。自分たちも市役所に案を出したりできる。

地域に対し自分ができることをしたいと考えている。

私も佐倉市役所として、佐倉の役に立てようという気持ちで頑張りたいと思います。

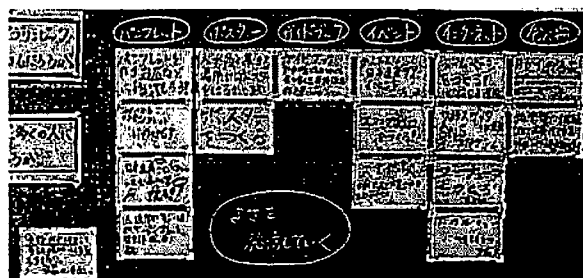
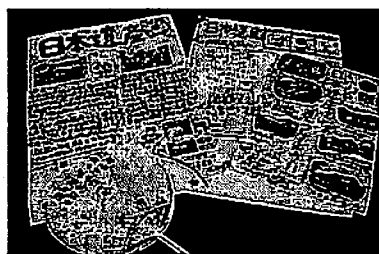
いいと思います。もしアンケートなどがあれば、喜んで協力します。日本遺産について広めたい。私達の気持ちをよくお願いします。

「市長への手紙」で提案した人数と主な内容

提案できた人数	“自分たちにできること”	“市に提案してみること”
35人 (100%)	・ホームページの内容検討 ・動画の内容検討 ・グッズデザインの案案作成 ・パンフレットの案案作成 ・ポスターの案案作成 ・スタンプラリー、ウォークラリーの台紙作成 ・自分の家族や知人への宣伝 ・イベントへの参加 など	・ホームページの開設、充実（子供向けも） ・SNSの活用 ・紹介動画の作成 ・案内看板、道路標示の設置 ・佐倉の名産品（蔵六餅、佐倉茶など）に写真や説明文を同封 ・ロゴ入りグッズ（うちわ、風船、ミニ旗、ストラップ）の配布 ・パンフレット、ガイドブック、ポスターの作成、各施設への設置 ・外国人向け、子供向けのパンフレットの作成、配布 ・スタンプラリー、ウォークラリーの企画、実施 ・武士の服装で町探索 ・案内のボランティアとともに散策 ・佐倉に関係するアニメ関連のイベント開催や施設整備 など

また、「市長への手紙」を書いた後は、どの児童も“自分たちにできること”として、“市に提案してみること”の具体的な内容を考えたり、ポスター、パンフレット、グッズなどのデザインの案案を考えたりした。また他にも、家族や知人に日本遺産について、機会をみて宣伝したり、地域のイベントに参加したりしようと考える児童もいた。

“自分たちにできること”として児童が作成したものの一部



提案の内容を整理した板書

手立て② 身近な人とのつながりを作る。

導入で岡村選手からのメッセージを受けた児童らは、オリンピック・パラリンピックをより身近に感じ、興味をさらに高めたと言える。そして自分たちにできることは何かを考えるために学習していこうという意欲をもつことができた。それにより学習する内容をオリンピック・パラリンピックや自分に関連づけてとらえることができるようになったと考えられる。

児童の授業後の振り返り

東京オリンピック・パラリンピックに関わろうと考えている。

オリンピック選手が身近にいてびっくりした。
実際のインタビューを聞いて想像以上に、アスリートのイメージが
変わった。オリンピックは、選手だけでなく、ボランティアなど
もあるのことがわかってうれしかったので東京オリンピックにも、より
興味を持った。

2020年の東京オリンピックに向けて自分たちが
何ができるか改めて知ることができた。
自分たちが2020年に何ができるか前回の
オリンピックのように不成功で終わると思う。
学習していきとで頑張るとで頑張ることを探していきたい。

終末の「市長への手紙」を書く活動では、近くにいながらも普段接することがほとんどない市長や市役所の方たちとつながることに対して、児童は緊張しながらも意欲的であった。「もしかしたら自分の提案が実現するかもしれない。」と、内容をよく考えて書く姿が見られた。その際に、提案だけでなく、自分たちも地域の一員としてできることをしていくという意志を示すため、その内容も加えて書くことになった。ここで、児童は自分にできることを考えるため、これまでの学習した内容を改めて自分との関連でとらえ直すことができたと思われる。

児童の授業後の振り返り

自分たちできることをしていこうと考えている。

実際に手紙を書くときは、市長に書くことだから、
さんちょうしにいって行くときもさんちょうしたけれど、
しかりさんでくれるみたいだ。返事もくれるということ
だったから安心した。これからの佐倉の発展に、少しでも
役に立てたらいいなと思った。

ものを市役所に出すという身近なものに知って、いざ知らなかった、とても
良い機会だったと思う。今回や自分の意見を言うことの大切さも
知れた。調べた後すぐには終わらせるのではなくこのように
伝え方もあるのを知り活用したい。

「社会との関わりの段階」の変容についての考察

最後に本実践を通じて、児童が社会との関わりについてどのように変容したかを検証する。

検証方法は、児童の授業後のふり返りやアンケート、市長への手紙等の記述を下記の表記例を基準にして振り分け、各段階の人数を集計し、各単元終了後に「社会との関わりの段階」のどの段階まで進むことができたかについて分析を行う。(個人の変容は、資料7)

「社会との関わりの段階」の表記例 及び 児童数と割合の変容

段階	表記例	事前	導入後	政治・憲法	国際理解	事後
④自分が考えた活動を社会の人に提案する	(具体的な行動を考え、社会にいる人に伝える活動を行い、) ～という活動を考えました。	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	35 (100%)
③自分が関わる活動を考えられる	(具体的な内容を)～したい。 これからは～しようと思う。	0 (0%)	6 (17%)	10 (29%)	22 (63%)	35 (100%)
②他者が関わる活動を考えられる	(具体的な内容を)～してほしい。 ～した方がいと思う。	2 (6%)	4 (11%)	4 (11%)	5 (14%)	0 (0%)
①自分との関連がとらえられる	(抽象的な内容を)～したい。 ～ということを知って～と感じた。	8 (23%)	22 (63%)	21 (60%)	8 (23%)	0 (0%)
①自分との関連がとらえられない	(単に社会的事象について) ～ということを知った。	25 (71%)	3 (9%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)

「①自分との関連がとらえられない」段階の例

ロンドンやアテネの人々は、オリンピックをとてもよく
的に見ていることがわかりました。

「②他者が関わる活動を考えられる」段階の例

オリンピックは、自分たちが活躍できる場所です。
オリンピックは、自分たちが活躍できる場所です。
オリンピックは、自分たちが活躍できる場所です。
オリンピックは、自分たちが活躍できる場所です。

「①自分との関連がとらえられる」段階の例

選手はオリンピックにかかわるのを楽しんでいると、
何かでオリンピックにかかわりたいと思いました。

こんなに近くにオリンピック選手がいて、
オリンピック選手がいて、オリンピック選手がいて、

「③自分が関わる活動を考えられる」段階の例

選手は、オリンピックにかかわるのを楽しんでいると、
何かでオリンピックにかかわりたいと思いました。

事前アンケート(資料2)では、「社会に対しての願いや思いを自分でかなえたいと思いますか?」という設問に対し、「自分でかなえたい」と考えている児童は24名(68%)もあり、本学級の児童は社会に関わりたいという意欲は高いと考えられる。だが、学習前のため、どう関連があるかということについては、上の表の通り、①のとらえられない児童が25名と多い。また、①の関連をとらえられている児童もその具体的な内容までは考えられていない。

東京オリンピック・パラリンピックについての導入後は、岡村選手の話を受けて、自分との身近さを感じ、東京大会に関わりたいという意欲をさらに高めた。ここではその方法をこの後の政治・憲法、国際理解、地域教材の学習を通して考えていくとつなげたため、まだ②や③の具体的な内容を考えられる児童は少ないが、①の自分との関連をとらえられる児童は増えた。

政治・憲法の単元後は、自分の生活とも関連があることを知ったことで、③にあたる、今後

さらに学んでいき選挙に行きたいという意見や「市長への手紙」という仕組みを利用したいという考えが出てきた。ただ、政治とオリンピック・パラリンピックでは、児童にとってまだ距離があり、自分がこうしていきたいと考えるのは難しかったと思われる。

一方、国際理解の単元は、身近に来るであろう個々の外国人を想定したため、③の自分にできることを具体的に考えられるようになった児童が大きく増えたと思われる。

終末の地域教材の単元も、自分の身近な場所での課題に対して考える活動だったため、全員の児童が自分にできることをしたいと③の具体的な活動内容を考えていた。さらに、児童は、その課題解決の可能性をより広げるために、政治の学習で扱った「市長への手紙」を活用したいと自分たちで考え、実際に行動し、市政への提案まで行うことができた。これは、本実践で目標としていたところを越え、④の段階まで全ての児童が進んだことになり、自らと社会との関わり方について考える力において、大きな変容を見せたと言えるだろう。

9 成果と課題

〈成果〉

- 東京オリンピック、パラリンピックを軸とした学習過程の工夫をしたことにより、児童は社会的事象同士の関連をとらえることができるようになり、自らを取り巻く社会への理解が深まった。
- 東京オリンピック・パラリンピックに関連する、児童にとって身近な素材を活用したことにより、児童は自らと社会の関連をとらえることができるようになり、自らと社会との関わり方について考える力が培われた。

〈課題〉

- 児童の主体的な取り組みを生かし、「社会との関わりの段階」においてさらに先へ進むための単元構成や指導法についての研究が必要である。
- 地域教材の前までの単元において、「社会との関わり」が「③自分が関わる活動を考えられる」段階まで進まなかった児童に対する考察（資料8）から、社会的事象同士の関連を理解させ、自ら社会と関わろうとする意欲をさらに引き出すための指導法についての研究が必要である。

社会的事象同士の関連をとらえ 自らと社会との関わり方について考えることのできる
社会科学習の在り方
～東京オリンピック・パラリンピックに向け 自分たちにできることを考える学習を通して～

資料編

資料1	学習指導要領第6学年の目標及び内容	P. 1
資料2	児童の実態アンケートの結果	P. 1～
資料3	岡村選手のインタビュー内容	P. 4
資料4	「市長への手紙」	P. 5
資料5	佐倉市子供議会関連資料	P. 6～
資料6	「市長への手紙」に対する回答	P. 8～
資料7	「社会との関わりの段階」の個人の変容と市への提案内容	P. 12
資料8	抽出児童の変容と考察	P. 13
資料9	学習のアウトライン	P. 14～
参考文献・資料		P. 16



佐倉市立佐倉小学校
久保 翔太

資料1 学習指導要領第6学年の目標及び内容

本実践は、学習指導要領第6学年の目標及び内容を受けて設定している。

目標

- (2) 日常生活における政治の働きと我が国の政治の考え方及び我が国と関係の深い国の生活や国際社会における我が国の役割を理解できるようにし、平和を願う日本人として世界の国々の人々と共に生きていくことが大切であることを自覚できるようにする。

内容

- (2) 我が国の政治の働きについて、次のことを調査したり資料を活用したりして調べ、国民主権と関連付けて政治は国民生活の安定と向上を図るために大切な働きをしていること、現在の我が国の民主政治は日本国憲法の基本的な考え方に基づいていることを考えるようにする。

ア 国民生活には地方公共団体や国の政治の働きが反映していること。

イ 日本国憲法は、国家の理想、天皇の地位、国民としての権利及び義務など国家や国民生活の基本を定めていること。

- (3) 世界の中の日本の役割について、次のことを調査したり地図や地球儀、資料などを活用したりして調べ、外国の人々と共に生きていくためには異なる文化や習慣を理解し合うことが大切であること、世界平和の大切さと我が国が世界において重要な役割を果たしていることを考えるようにする。

ア 我が国と経済や文化などの面でつながりが深い国の人々の生活の様子

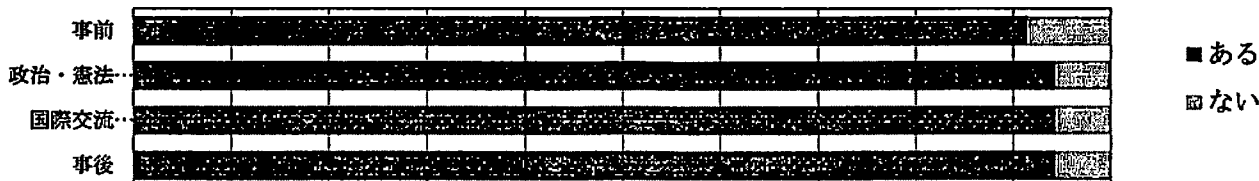
イ 我が国の国際交流や国際協力の様子及び平和な国際社会の実現に努力している国際連合の働き

資料2 児童の実態アンケートの結果

「事前」と各単元後（「政治・憲法後」、「国際理解後」）と「事後」に実施した。

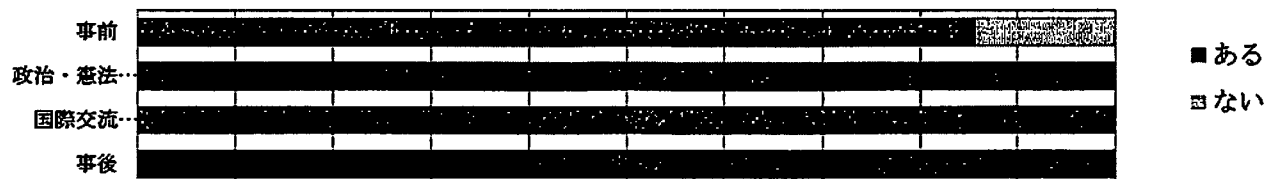
①2020年に行われる東京オリンピック・パラリンピックに興味はありますか。

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%

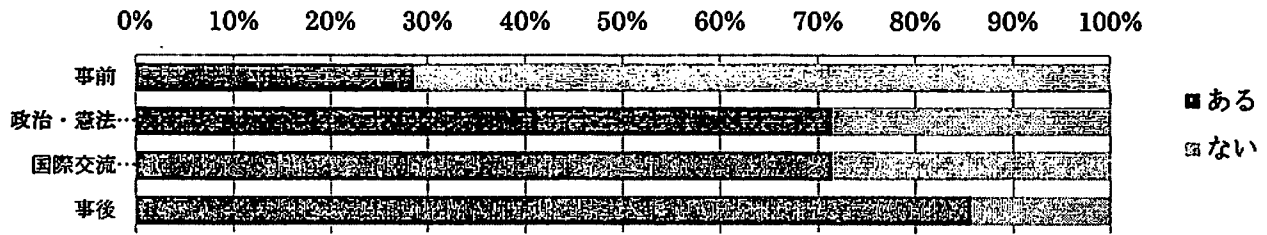


②東京オリンピック・パラリンピックは自分の生活とつながりがあると思いますか？

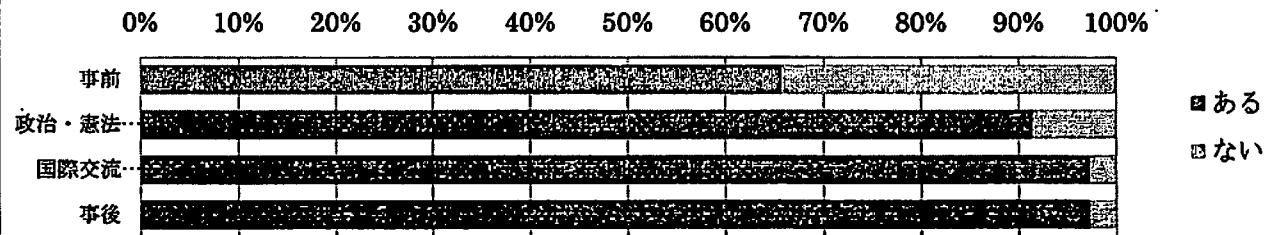
0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



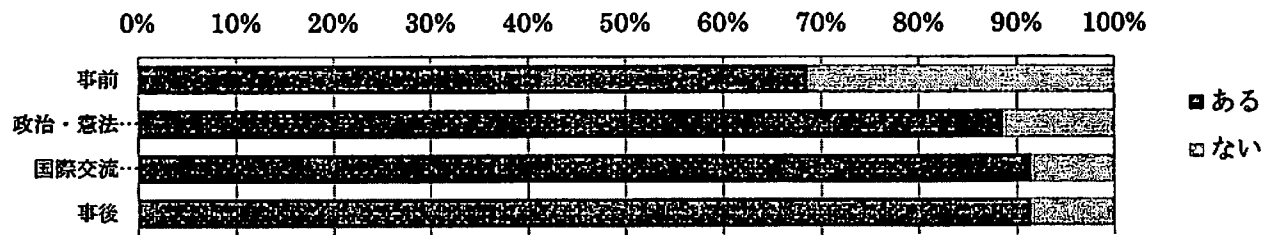
③政治に興味はありますか。



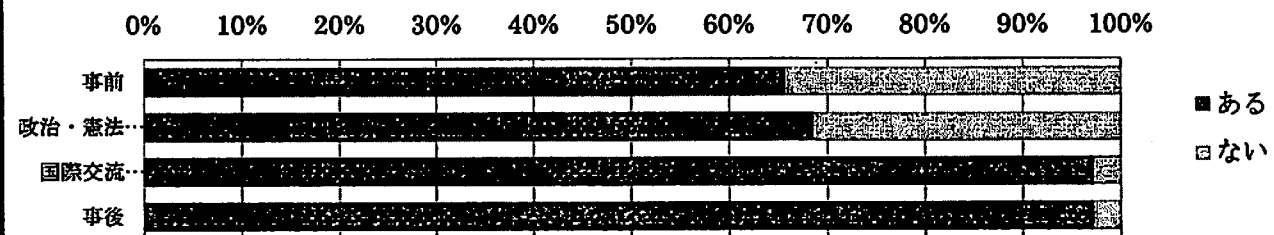
④政治は自分の生活とつながりがあると思いますか？



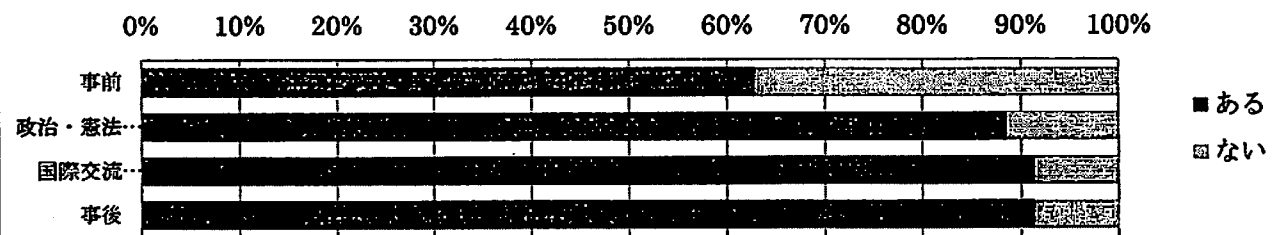
⑤世界の他の国のことに興味はありますか。

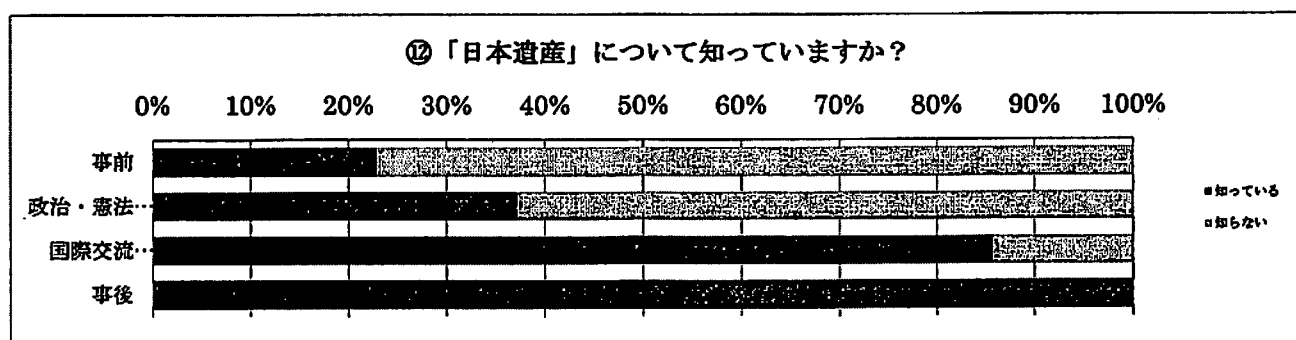
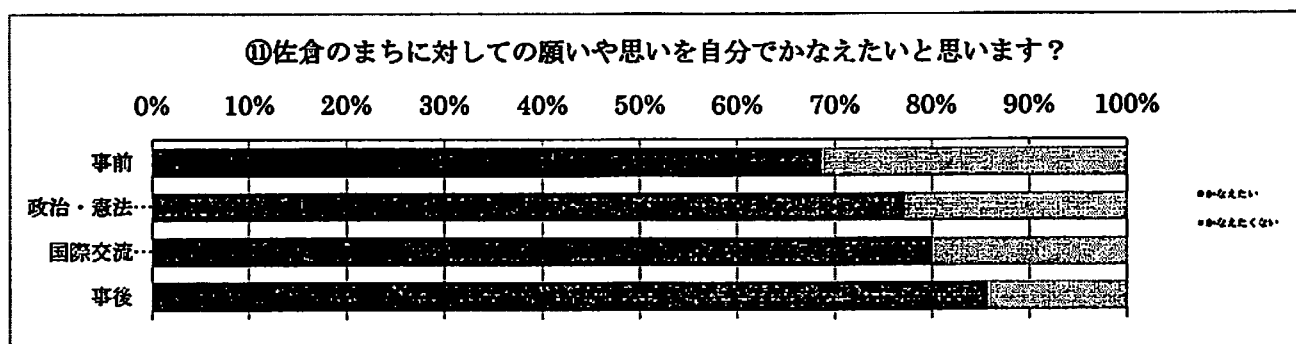
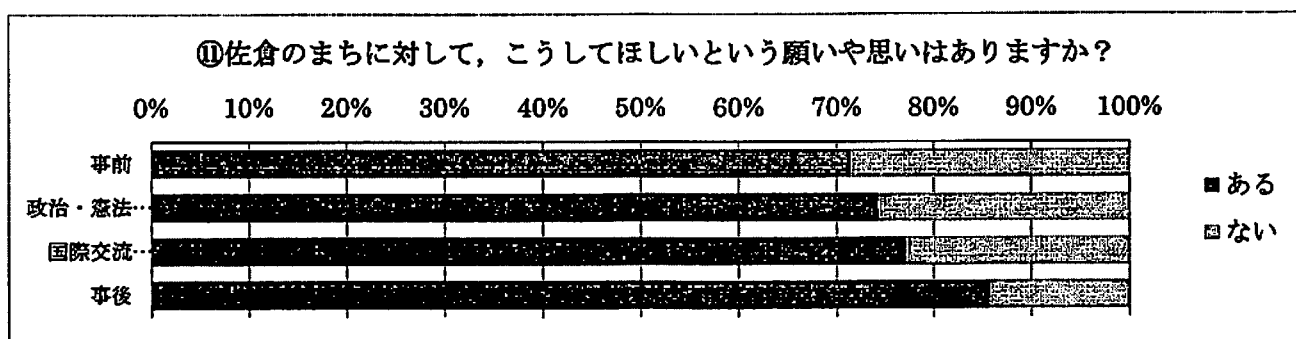
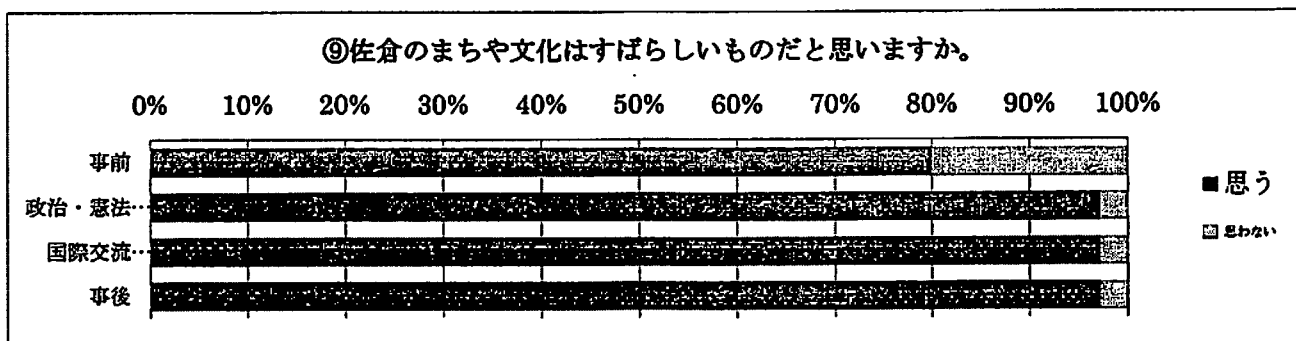
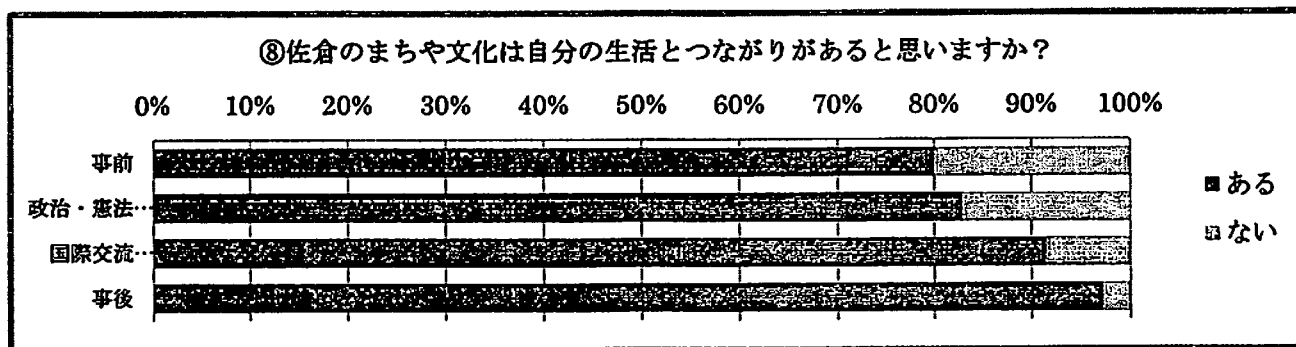


⑥世界の他の国のことは自分の生活とつながりがあると思いますか？



⑦佐倉のまちや文化に興味はありますか。





どの単位に関するの内容についても、実践を通して関心や理解の向上が見られるようになった。

資料3 岡村選手へのインタビュー内容概要



自己紹介をお願いします。

身近に感じさせるための工夫

佐倉小学校の6年生のみなさん、私は千葉盲学校の岡村正広と言います。
昨年、リオデジャネイロで行われたパラリンピックに視覚障がいの部で
出場しまして、銅メダルを獲得することができました。よろしくお願いします。

リオデジャネイロパラリンピックに出場して良かった点を教えてください。

良かったことの1つは食事がおいしかったことです。リオの選手村には、何千人も入る大きな食堂が
あります。24時間、いつでも食べ放題です。色々な国の人が入るので、色々な国の料理が置いてあり
ます。栄養のバランスも考えられています。

2つ目は、競技会場も施設も新しくきれいで、障がい者も困らないようにバリアフリーになっていた
ことです。

施設（選手村・会場）の充実の大切さを確認

他にも良かった点があったら教えてください。

リオのパラリンピックは施設だけでなく、人が支えてくれているということを実感しました。
ボランティアの方々がいつも親切に接してくれて、仕事もきっちり行ってくれたので、とても安心
して過ごすことができました。

改善点を確認

人的な面での充実
の大切さを確認

逆に、気になった点を教えてください。

リオに出発する前、日本でも報道されていたように、治安が悪いという点です。

交流の難しさを確認

リオで他の国の選手と交流することはありましたか。

競技に集中するため、また言葉が通じないため、他の国の選手と交流する機会はありませんで
した。ほとんどは日本のチームの人と過ごしていました。言葉が通じないと交流できないので、英語を
話せるようにしておけばよかったと思いました。

応援に行かれた家族の方は、どのような過ごされ方をしていましたか。

家族は選手村で過ごすことはできないので、外の一般のホテルに泊まって応援に来てくれました。
応援の時以外は、ブラジルの料理や文化に接して、楽しんでいたようでした。コルコバードの丘の
キリストの像の方にも行ったそうです。

観光の充実
の大切さを確認

リオに参加されて、東京大会もこうなったらいいと思う点を教えてください。

リオで感じたことは、障がい者スポーツの人気の高いということです。障がい者の選手でプロ契約
されている方もいます。ブラジルという国は、障がいとか関係なく、みんなを受け入れようという風潮
があると感じました。

東京オリンピック・パラリンピックでも、同じように障がい者スポーツへの理解を深め、人気を高め
て盛り上げていってほしいと思います。オリンピックもパラリンピックも、みんなで盛り上げて
ほしいです。

障がい者スポーツへの理解の大切さを確認

参加しようという
思いの大切さを確認

最後に、東京オリンピック・パラリンピックを目指している子どもたちに、アドバイスををお願いします。

オリンピックを目指すことは、その時の世界のトップレベルを目指すということですが、いけるか
どうかを考えるよりも、やってみないとわからないので、どのようにレベルアップをはかっていくか
ということを考え、それをじっくりと続けていくことが大切です。また、オリンピック・パラリンピック
には、色々な形で参加できます。自分にできる形を探していってください。応援しています。

資料4 「市長への手紙」

「佐倉」をよりよいまちにするため、市民からの市政に対する意見や要望を把握するための制度。

「市長への手紙」は市役所・出張所・郵便局に、用紙と専用の封筒（切手は不要）が設置されている。ただ、用紙は任意のものでも可ということだったので、本実践では返信をもらうため以下のような形式を用い、一人一人が手紙を書き、束ねることにした。

佐倉市長 藤和雄様
佐倉市立佐倉小学校 6年 ()
佐倉市新町78-4 電話番号 043-484-1028
こんにちは。 私達は、社会科の学習で日本遺産について調べました。私は、学習をするまで日本遺産のことを全く知りませんでした。このように知らない人が多いと思います。そこで子供から見た日本遺産についてのホームページをつくることを考えました。市役所の文化課によると今後ホームページはつくるそうなのですが、特に子供はなかなか気付かないと思います。もしアンケートなどが必要でしたら喜んで協力します。日本遺産について広めた私達の気持ちをよろしくお願いします。

20×20

資料5 佐倉市子供議会関連資料

子供議会で「市長への手紙」について質問した「質問書」とそれに対する市役所秘書課の「答弁」。
子供議会の様子を見て議会の仕組みについて学びながらも、この質問の内容を実際に地域教材の単元に活用してみた。

質問原稿 1

学 校 名：(佐 倉) 小学校

質 問 者：()

質問部局名：(企画政策 部)

私は、佐倉小学校6年の[]です。市民からの意見や要望を伝える市長への手紙について2点、質問いたします。

先日、私がよく遊びに行く公園で、スプレーによる落書きがあるのを見つけました。市民が気持ちよく使えるよう、きれいに使っていた公園だったのでとても残念な気持ちになりました。さすがに、スプレーで書かれているものだったので、私達では簡単に消すことができませんでした。そこで、市役所に相談して、この落書きに対応してもらおうと考えました。しかし、このときに考えたのは、今回のように落書きをされてから対応するのではなく、未然に落書きを防ぐためにも何か対策をとってほしいということでした。私はこうした佐倉市役所への願いをどのように伝えれば良いのかと疑問に思ったので調べてみることにしました。すると、佐倉市ではそうした市民の声に対する窓口として、市長への手紙という仕組みが整えられていることを知りました。

私は市長へ手紙を通して市に意見や要望を伝えられることは、とても良いことだと思いました。ただ、もしもその手紙が多く届きすぎると、市長は意見を把握し切れなくなり、十分に対応してもらえなくなってしまうのではないかと思います。また、その手紙は 市民であれば誰が送っても良いのかということも気になりました。

そこで質問いたします。

1点目は、市長への手紙は、一年間にどのくらい送られてきているのでしょうか。

2点目は、私達小学生など子供が送った手紙でも受け付けていただけるのでしょうか。

この2点について伺いたいと思います。

以上で質問を終わりにします。

質問議員 佐倉市立 佐倉 小学校 議員	担当部課(室) <u>企画政策部 秘書課</u> 答弁書作成者 <u>岩井 好弘</u> 議場での答弁者 役職名 <u>秘書課長</u> 氏 名 <u>秋葉 良一</u>
--	---

【質問要旨】

市長への手紙は、一年間にどのくらい送られてきているのでしょうか。
また、私たち小学生など子供が送った手紙でも、受け付けていただけるのでしょうか。

【答 弁】

議員のご質問にお答えいたします。

市では、市民の皆様からの様々なご意見を市政に反映することを目的に、市民の声制度を設け、秘書課に市民の声担当の窓口を設置しております。

ご意見は、メールやFAX、電話、また直接窓口にお見えになるなど、様々な形で頂戴しておりますが、その中の一つに、ご質問にございました『市長への手紙』がございます。

ご質問の一点目の市長への手紙の受付件数でございますが、昨年、平成27年度では、345人の方から538件のご意見を頂いております。

平成24年度が344件でしたので、年度ごとのばらつきはございますが増加傾向にある状況でございます。

次に、小学生からのご意見も受付けているかのご質問でございますが、今年度も、小学4年生お一人からお住いの地域の地名の由来に関するご質問が寄せられており、資料をお送りするとともに、図書館を紹介させていただいたところでございます。

市政についてのご意見・ご提案がございましたら、秘書課市民の声担当まで、お寄せいただきたいと思いますと考えております。

また、ご質問の中に、「市長への手紙の件数が多すぎた場合、十分な対応ができないのではないか」とのご心配を頂いております。

頂いたご意見につきましては、担当する各部署におきまして緊急性や経費も考え、優先順位をつけ対応しているところでございます。

ご指摘の落書などにつきましては、市役所の職員だけで全てを把握することは難しく、このため、市民の皆様からのお気付きの点等ございましたら、お手紙だけでなく電話でも結構ですので、遠慮なくお寄せいただきたいと思います。

市といたしましては、市民の皆様からの様々なご意見を、市政に反映させていただくため、今後とも市長への手紙をはじめとした市民の声制度の周知に努めてまいりたいと考えております。 以上でございます。

資料6 「市長への手紙」に対する回答

児童の書いた「市長への手紙」は、佐倉市役所秘書課が窓口となり受け付け、日本遺産担当の佐倉市教育委員会文化財課文化財班の職員の方が回答を考え、佐倉市長の名前で返事をくださった。

児童の提案が、次年度以降開始されるものや予定されているもの、さらに今後検討の余地があるものだったことがわかる。

佐倉市立佐倉小学校
久保 翔太 様

日本遺産登録の周知について（回答）

佐倉市長 萩 和雄

日本遺産登録をより広く周知してもらい、地域の活性化につなげるための多くの提案ありがとうございます。佐倉市とともに日本遺産に認定された成田市、香取市、銚子市は、日本遺産「北総四都市江戸紀行」の活用を推進するための活用協議会を結成し、活動しています。この活動に加えて、城下町佐倉をより積極的にアピールする佐倉市独自の取り組みも行っています。皆様のご提案・ご意見を踏まえ、各分野について、これまでに実施してきた取り組みやこれからの取り組みについて、別紙の通りまとめました。

回答が遅くなりまして、誠に申し訳ありませんでした。児童の皆さんは、中学生になられ勉強や部活に励んでいることと思います。今後とも日本遺産の取り組みに注目していただき、ご理解・ご協力のほど、どうぞよろしくお願いいたします。

【担当】

佐倉市教育委員会文化財課文化財班
猪股・須賀

TEL : 043-484-6192

日本遺産「北総四都市江戸紀行・江戸を感じる町並み」の取り組みについて

1、インターネットを活用した取り組み

(1) 日本遺産「北総四都市江戸紀行」公式ホームページ

- ・佐倉市、成田市、香取市、銚子市、千葉県からなる日本遺産北総四都市江戸紀行活用協議会では、「北総四都市江戸紀行」をアピールするための公式ホームページを開設しています。[\(https://hokuso-4cities.com/\)](https://hokuso-4cities.com/)

(右のQRコードからもアクセスできます。)



- ・ホームページでは、日本遺産に認定されたストーリーや、各市の構成文化財の解説、モデルコースなどを見ることができます。
- ・また、スマートフォン用の町歩きアプリケーションもホームページからダウンロードすることができます。

(2) SNS やプロモーションビデオの活用

- ・公式ホームページだけではなく、Facebook やツイッター、Instagram といった SNS との連携を行い、より広く情報を発信していくことを今後の取り組みとして想定しています。
- ・四市それぞれの歴史・文化の体験について紹介する動画も完成し、YouTube にアップロードすることになっています。
- ・外国人の方々にもわかるように、英語、中国語、韓国語、スペイン語、タイ語のホームページ、動画を作っています。
- ・子供向けの内容については不足しているので、今後、内容の充実と見直しを進めたいと思います。

2、看板案内・表示、ロゴマークに関する取り組み

(1) 看板案内・表示について

- ・各市それぞれに日本遺産を案内する看板を設置・改修しました。
- ・佐倉市では、JR 佐倉駅北口に旧城下町を中心に構成文化財を解説する看板を設置しています。
- ・今後、さらに解説の看板を設置・改修してよりわかりやすく充実させていく予定です。

(2) 日本遺産ロゴマークの活用について

- ・日本遺産の認定について広く周知する目的であれば、日本遺産のロゴマークを使った商品づくりが可能となっています。昨年度も、市内の業者の方々から申請があり、日本遺産のロゴマークを使った商品などが少しずつ増えてきています。

- ・また、城下町商店会の協力によって、新町通りには日本遺産のロゴマークが入ったフラッグが作成されました。
- ・今後は、ロゴマークを使った商品の充実と日本遺産認定を広く知ってもらうためののぼりを構成文化財である施設や新町通りなどに設置する予定です。
- ・ロゴマークが入った佐倉の特産品を外国の方々に配布・試食してもらうのも新しい取り組みかもしれません。今後検討してみたいと思います。

3、配布物を活用した取り組み

(1) パンフレット、ガイドブック

- ・活用協議会では、日本遺産を解説するパンフレット、ガイドブックを作成しました。
- ・日本遺産のストーリーや各市の位置づけについて紹介しています。
- ・外国人の方々にもわかるように、英語、中国語、韓国語、スペイン語、タイ語のものも作成しました。
- ・各市の施設に設置し、日本遺産をPRする色々なイベントを行い配布して活用していく予定です。

(2) その他

- ・平成28年の夏の花火大会では、日本遺産のロゴマーク入りのうちわを作成し、配布しました。
- ・佐倉市独自の取り組みとして、市内小中学校の児童向けに日本遺産について解説したチラシを作成・配布しております。

4、体験型イベントに関する取り組み

(1) 城下町佐倉を体感するための取り組み

- ・佐倉はお城があった町、つまり城下町なので、佐倉城跡や武家屋敷といった武士の文化を語る文化財が多く残っています。この点が日本遺産と佐倉をアピールする際のポイントとなります。
- ・佐倉市では、武家屋敷での甲冑試着会を年数回行っていますが、今後回数を増やし、着ることができる甲冑を追加する予定です。
- ・また、甲冑だけでなく武士の衣装も着られるようなイベントを実施し、武士の格好で町並みを散策できるように整備を進める予定です。

(2) 子ども向けウォークラリーについて

- ・昨年の夏休み期間には、「日本遺産認定 佐倉なぞとにゃんさんぽ」を実施しました。
- ・このイベントは、ガイドブックに書かれた謎を解き、答えの場所に答えの場所に向かう。最初の場所で地図と第2のメッセージをもらい、その後は謎を解きながら、その謎が指示する場所に向かい、最終ゴール地点を目指す。ゴール地点に着くと景品がもらえるイベントでした。

・今年度も内容の改善をはかりながら実施する予定です。こういった内容や景品が喜ばれるかもっと意見があればうれしく思います。

(3) その他

- ・弱虫ペダルなど若い人に人気のあるマンガやアニメといったメディアと文化財をつなげていく取り組みも現在注目されている分野の一つです。
- ・佐倉市では、武家屋敷や旧堀田邸でコスプレの写真撮影を受け入れたりもしています。今後は、そうした方々にも利用しやすい環境を整えていくのも、新たな文化財の活用を考えていくために重要なことです。

最後に

たくさんのご意見・ご提案誠にありがとうございました。児童の皆さんからいただいたアイデアを参考にしながら、より広い世代、国々の方々に佐倉のことを知ってもらい、訪れてもらう機会を増やしていきたいと考えております。

日本各地には古い建物や遺跡、お祭りなどの文化財が多く残っています。これらは日本の歴史や文化を伝えるとても大切なものですが、ひとつひとつでは、その魅力・素晴らしさがわかりにくいところがあります。それぞれに共通する魅力を活かして点在する文化財を「日本遺産」としてまとめてアピールしていくことで地域を活性化する、というのが「日本遺産」のとりくみの狙いになっています。

江戸幕府を支え、西洋の学問を積極的に取り入れた佐倉には佐倉城跡、武家屋敷、旧堀田邸、旧佐倉順天堂、城下町佐倉の祭礼など歴史を語る「本物」の文化財が多く残っています。佐倉と同じく江戸を深いかかわりをもつ、成田市、香取市、銚子市と協力して、千葉県で初めての日本遺産、世界から一番近い「江戸」を感じられる北総の町並みを広く世界にアピールし、文化財の保存・整備はもちろんのこと、積極的に活用しながら、より有意義なカタチで、後の世代に継承してまいります。

資料7

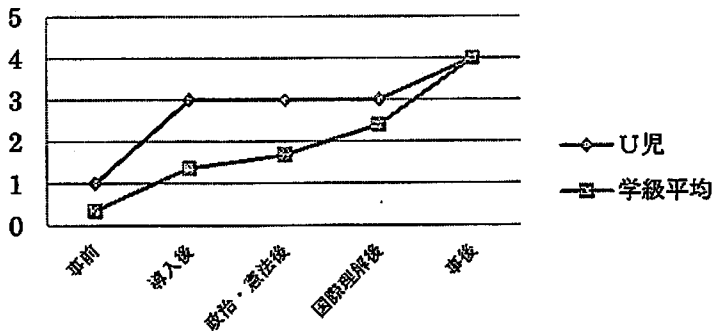
「社会との関わりの段階」の個人の変容と市への提案内容

		4:提案 3:自分関わり 2:他者関わり 1:関連○ 0:関連×	事前	導入後	政府・自治体後	国際理解後	事後	“市に提案してみる”
1	A児		1	1	3	2	4	・スタンプラリーの企画、実施ーグッズプレゼント
2	B児		0	1	1	3	4	・佐倉の名産品(蔵六餅、佐倉茶など)に写真や説明文を同封
3	C児		0	1	1	3	4	・日本遺産の説明の掲示(駅、店舗など)
4	D児		0	1	1	2	4	・パンフレット、ガイドブックの作成、配布(店舗、成田、空港、市立美術館など) ・スタンプラリーの企画、実施ーグッズプレゼント
5	E児		0	1	1	1	4	・佐倉の名産品(蔵六餅、佐倉茶など)に写真や説明文を同封
6	F児		0	3	1	2	4	・パンフレット、ガイドブックの作成、配布(店舗、成田、空港、市立美術館など) ・武士の服装で町探検
7	G児		1	1	3	3	4	・ウォークラリーの企画、実施ーグッズプレゼント
8	H児		2	3	1	3	4	・ホームページの開設、充実(子供向けにも)
9	I児		0	2	1	2	4	・新町通りの店舗増設
10	J児		0	1	2	3	4	・パンフレット、ガイドブックの作成、配布(店舗、成田、空港、市立美術館など) ・案内看板、道路標示の設置 ・佐倉の名産品(蔵六餅、佐倉茶など)を試供品のように配布 ・日本遺産ガチャガチャの作成、設置
11	K児		0	1	3	1	4	・子供向け町巡りマップの作成 ・子供にお菓子配布
12	L児		0	2	1	3	4	・外国語のパンフレットの作成、配布 ・案内看板、道路標示の設置
13	M児		0	1	1	3	4	・ウォークラリーの企画、実施ーグッズプレゼント ・案内のボランティアとともに散策
14	N児		0	1	3	3	4	・佐倉の名産品(蔵六餅、佐倉茶など)の包装に写真や説明文を掲載
15	O児		0	1	1	3	4	・ロゴ入りのグッズ(うちわ、風船、ミニ旗、ストラップ)の配布
16	P児		1	3	1	3	4	・佐倉の名産品(蔵六餅、佐倉茶など)に写真や説明文を同封
17	Q児		2	1	1	3	4	・SNSの活用 ・目立つ場所(駅、IC、道路など)へのポスターの掲示 ・市内店舗で買い物し、ポイントを貯めるーグッズプレゼント
18	R児		0	1	2	3	4	・ロゴ入りのグッズ(うちわ、風船、ミニ旗、ストラップ)の配布
19	S児		0	1	1	2	4	・目立つ場所(駅、IC、道路など)へのポスターの掲示 ・パンフレット、ガイドブックの作成、配布(店舗、成田、空港、市立美術館など)
20	T児		1	1	1	3	4	・目立つ場所(駅、IC、道路など)へのポスターの掲示 ・佐倉の名産品(蔵六餅、佐倉茶など)の包装に写真や説明文を掲載 ・パンフレット、ガイドブックの作成、配布(店舗、成田、空港、市立美術館など) ・スタンプラリーの企画、実施ーグッズプレゼント
21	U児		1	3	3	3	4	・ホームページの開設、充実(子供向けにも)
22	V児		0	1	3	3	4	・パンフレット、ガイドブックの作成、配布(店舗、成田、空港、市立美術館など) ・ロゴ入りのグッズ(うちわ、風船、ミニ旗、ストラップ)の配布 ・武士の服装で町探検
23	W児		0	0	1	1	4	・パンフレット、ガイドブックの作成、配布(店舗、成田、空港、市立美術館など) ・マスコットを活用しPR
24	X児		1	1	3	3	4	・佐倉の名産品(蔵六餅、佐倉茶など)の包装に写真や説明文を掲載 ・ロゴ入りのグッズ(うちわ、風船、ミニ旗、ストラップ)の配布 ・アニメ(弱虫ペダル、ルパン三世など)関連のイベント開催や施設整備 ・武士として模擬対戦するコーナーの設置
25	Y児		0	2	3	3	4	・市長のおすすめのお店をSNS等で発信
26	Z児		0	2	3	1	4	・案内看板、道路標示の設置
27	a児		0	1	1	1	4	・スタンプラリーの企画、実施ーグッズプレゼント
28	b児		0	0	1	3	4	・ホームページの開設、充実(子供向けにも) ・目立つ場所(駅、IC、道路など)へのポスターの掲示 ・佐倉の名産品(蔵六餅、佐倉茶など)の包装に写真や説明文を掲載 ・パンフレット、ガイドブックの作成、配布(店舗、成田、空港、市立美術館など) ・武士の服装で町探検 ・スタンプラリーの企画、実施ーグッズプレゼント
29	c児		0	1	1	1	4	・パンフレット、ガイドブックの作成、配布(店舗、成田、空港、市立美術館など)
30	d児		1	3	1	1	4	・目立つ場所(駅、IC、道路など)へのポスターの掲示
31	e児		0	0	1	3	4	・佐倉の名産品(蔵六餅、佐倉茶など)に写真や説明文を同封
32	f児		1	3	2	3	4	・佐倉の名産品(蔵六餅、佐倉茶など)の包装に写真や説明文を掲載
33	g児		0	1	2	3	4	・スタンプラリーの企画、実施ーグッズプレゼント
34	h児		0	1	3	1	4	・ロゴ入りのグッズ(うちわ、風船、ミニ旗、ストラップ)の配布 ・佐倉の名産品(蔵六餅、佐倉茶など)に写真や説明文を同封
35	i児		0	1	1	3	4	・紹介動画の作成、アップ ・スタンプラリーの企画、実施ーグッズプレゼント

資料8 抽出児童の変容と考察

「社会との関わりの段階」について、学級全体の中で平均して高い段階にいた児童（U児）、中程度の段階にいた児童（F児）、低い段階にいた児童（E児）について考察を行う。

U児の「社会との関わりの段階」の変容



【実態】どの学習にも前向きに取り組む。

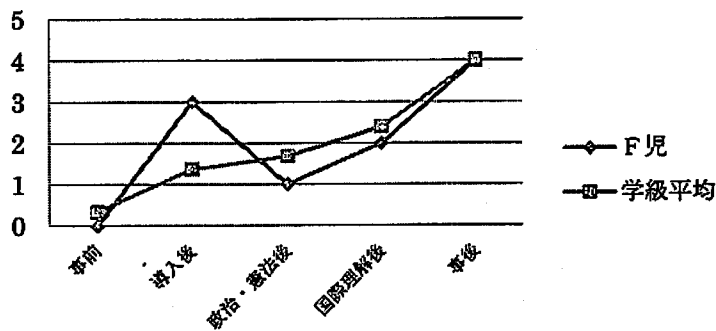
【アンケートの関心の変容】

	オリワ	政治憲法	国際理解	地域
事前	ある	ない	ある	ない
事後	ある	ある	ある	ある

【記述の変容】

ボランティアに興味をもつ。常にオリンピック・パラリンピックを意識している。

F児の「社会との関わりの段階」の変容



【実態】学習に苦手意識をもっている。

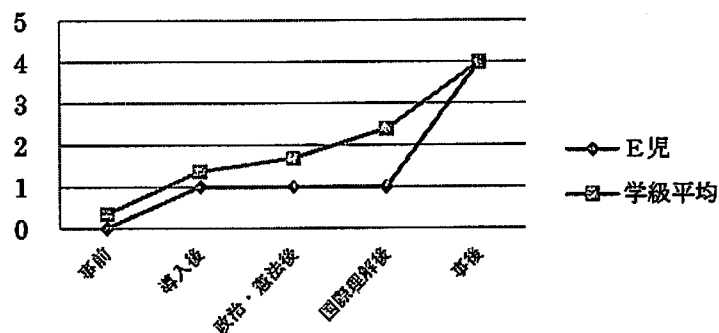
【アンケートの関心の変容】

	オリワ	政治憲法	国際理解	地域
事前	ある	ある	ある	ない
事後	ある	ない	ある	ない

【記述の変容】

「政治・憲法」が難しかったとあった。オリンピックの選手になりたいと思っている。

E児の「社会との関わりの段階」の変容



【実態】学習は苦手ではない。

【アンケートの関心の変容】

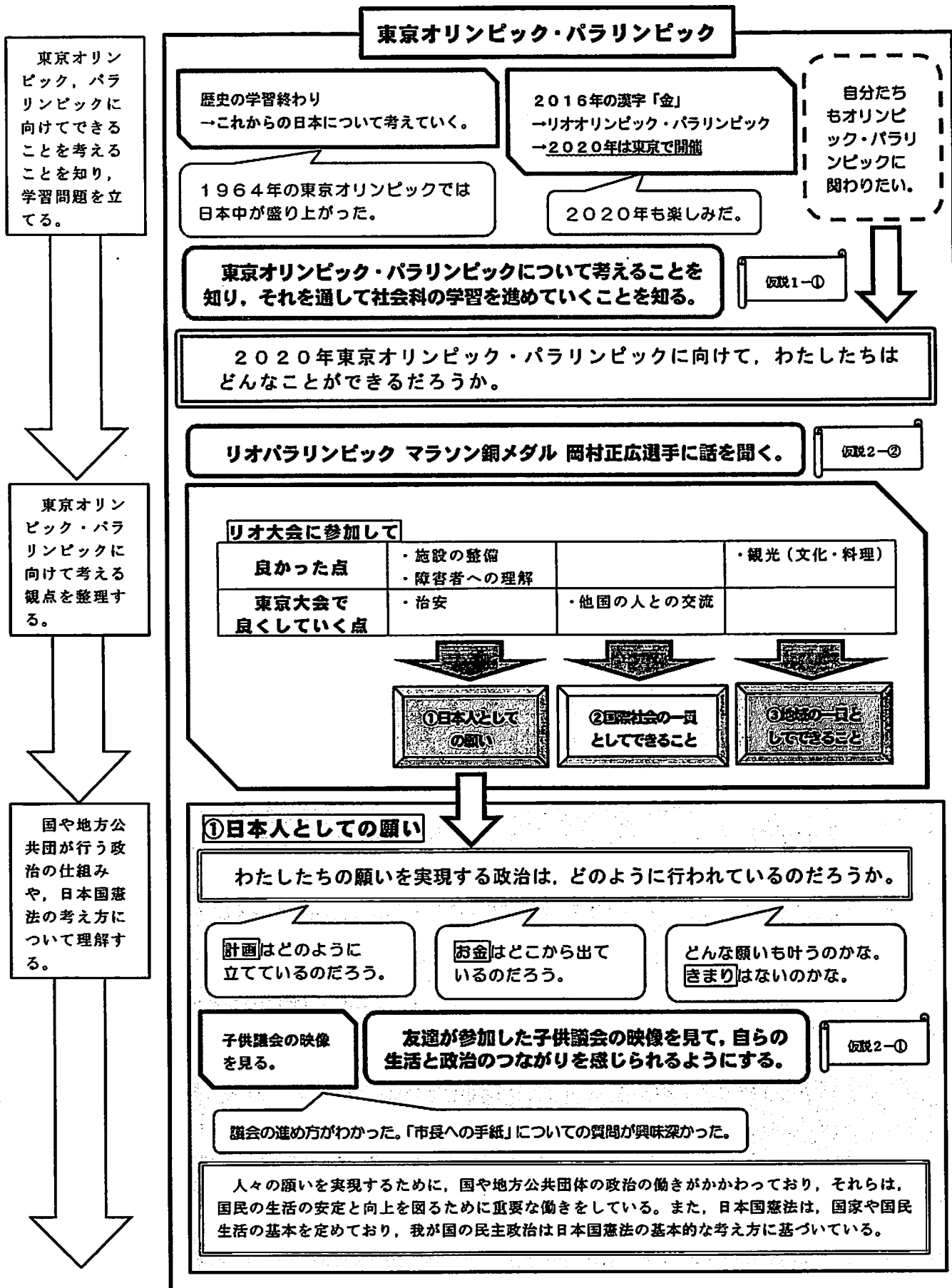
	オリワ	政治憲法	国際理解	地域
事前	ある	ない	ある	ない
事後	ある	ない	ある	ある

【記述の変容】

オリンピック・パラリンピックに関する記述が「地域教材」まで抽象的であった。

＜考察＞ U児とF児はそれぞれ東京オリンピック・パラリンピックに向け、具体的な関わり方の目標があり、それに関連させて単元の学習を行ったため段階を上げることができたと考えられる。ただやはり、F児の結果から、前提として社会的事象同士の関連をとらえられないと、自らとの関連をとらえられないことがわかる。一方、E児は社会的事象同士の関連はとらえられたが、オリンピック・パラリンピックへの関わり方の目標が抽象的だったため、単元の学習でも自ら関わる方法を考えることが難しかったと考えられる。以上のことから、前提として「社会的事象の関連の理解」と、自ら関わりたいという意欲をさらに引き出すことが重要であると考えられる。

資料 9 学習のアウトライン（23時間）



日本とつながりの深い国の人々の生活の様子について理解する。

②国際社会の一員としてできること

リオオリンピック・パラリンピックには、206の国と地域が参加。

訪日外国人観光客も増えている。

佐倉はアメリカ陸上チームのキャンプ地になっている。

様々な国や地域の人に参加する。交流には、相手のことを知る必要がある。
文化や生活について調べよう。

日本に関わりの深い国を調べよう。

佐倉もオリンピックや外国とのつながりがあるなんてすごい。

日本とのつながりの深い国の人々は、どのような生活をしているのだろうか。

調べた事象を整理するため、グループで模造紙にまとめ、他の児童へ伝える。

仮説1-②

世界には、日本とつながりの深い国々があり、それぞれに特色ある文化や習慣がある。

佐倉のよさを多く含む日本遺産を広く知ってもらうための方法を考え、発信する。

③地域の一員としてできること

2020年、訪日観光客数目標4000万人。

佐倉のよさを考える。

佐倉のよさの中のものが、平成28年度に日本遺産に登録された。

日本のよさ、佐倉のよさを伝えていきたい。

歴史、建物、自然、行事、施設、食、立地など。

地元佐倉の日本遺産を教材化し、自らの生活とのつながりを感じられるようにする。

仮説2-①

国内外の人に佐倉の日本遺産を知ってもらいたい。

自分たちも含めて市民にほとんど知られていない。

佐倉が日本遺産に登録されたことを、多くの人に伝えていくにはどんなことができるだろうか。

自分たちでできること。

自分たちだけでは難しいこと。

子供議会の映像で見た「市長への手紙」を書いて意見を伝える。

活動を進めていこう。デザインは作れそう。

市や地域の力が必要。提案してみよう。

自分たちの考えを、社会に発信する。

仮説1-②

佐倉が日本遺産登録されたことを、多くの人に伝えていくには、自分たちができることをしたり、市や地域、関係団体に意見を提案したりするなどして、情報発信をすることができる。

東京オリンピック、パラリンピックに向けてできることを考える。

2020年東京オリンピック、パラリンピックに向けて、わたしたちは政治に関心を持ち、選手や観光客に日本や佐倉のよさを感じてもらえるように、できることを考えて協力して行っていく。

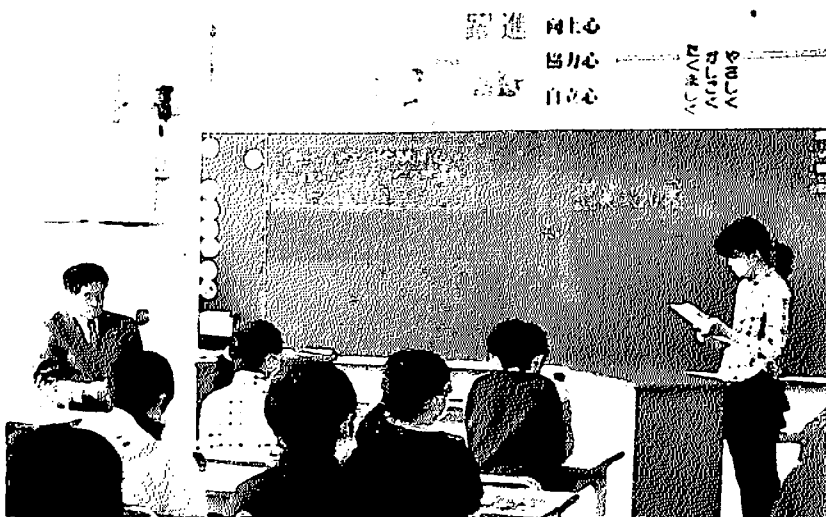
【参考文献・資料】

- 文部科学省,「教育課程企画特別部会 論点整理」,平成27年
- 文部科学省,「小学校学習指導要領解説 社会編」,平成20年
- ロジャー・ハート,「子どもの参画・コミュニティ作りと新たな課題への参画のための強と弱」,萌文社,平成12年
- 日本青少年研究所,「中学生・高校生の生活と意識」,平成21年
- 日本社会科教育学会,「社会科教育辞典」,ぎょうせい,平成26年度

社会参画力の基礎を培う社会科学習のあり方

～第6学年 わたしたちの生活と政治

(千葉ニュータウン中央駅周辺の開発) を題材として～



1 研究主題

社会参画力の基礎を培う社会科学学習のあり方
～第6学年 わたしたちの生活と政治（千葉ニュータウン中央駅周辺の開発）を題材として～

2 主題設定の理由

(1) 学習指導要領から

学習指導要領総説2 社会科改訂の趣旨において「小学校社会科においては、前述した社会科、地理歴史科、公民科の改善の基本方針を受け、地域社会や我が国の国土、歴史などに対する理解と愛情を深めることを通して、社会的な見方や考え方を養い、そこで身に付けた知識、概念や技能などを活用し、よりよい社会の形成に参画する資質や能力の基礎を培うことを重視している」とある。

ここでいう「よりよい社会の形成に参画する資質や能力」とは、すなわち「社会参画力」であり、「よりよい社会のあり方を考えて、その実現のために知恵を出し合い、様々な人たちと共に行動しようとする社会的実践力」と説明できる。また、それを身に付けさせるためには、「社会のことをよく理解していること」「社会のことがらを他人事ではなく、自分事として捉えること」が必要不可欠である。

これまでの社会参画力の研究は、中学年の地域教材を取り入れたものが多いが、本研究では、6年生の政治の学習において行う。地域開発を題材とすることで、社会のことがらを自分事として捉えて、それらを解決しようとする意識を芽生えさせるといった、社会参画力の基礎を培いたい。

(2) 印教研究主題から

よりよい社会の実現に寄与する「生きる力」を培う社会科学学習
～自ら課題をみだし、自らの考えを実現できる児童生徒の育成をめざして～

印教研究主題にある「生きる力」とは、「学んだことを実生活や実社会において、どのように生かすことができるのか、自分にも関わることがあるのではないかと考え続けること」と考える。またそれらを培う基礎として、社会的・歴史的な事実をもとに調べ、考え、まとめ、表現する力の育成は必要不可欠である。

そこで、本研究では、地域教材を取り入れた政治学習を通して、社会のことがらを他人事でなく自分事として捉えさせる。その中でより良い社会に変えていくために自分にできることを考えて、他者と話し合ったり、計画を立てて実行しようとしたりする「社会参画力の基礎」を培うことこそが、印教研究主題にある「生きる力」を培うことであると考え、本研究主題を設定した。

(3) 児童の実態から（6年2組 31名）

本学級は、社会科学学習に意欲的に取り組む児童が多い。全体的に学力が高く、学習の理解も早い。話し合い活動で自分達の考えを共有し深めたり、調べ学習を工夫して行うことで課題を解決したりできることも多い。

政治についての事前調査では、国会、国会議員、内閣総理大臣、憲法といった「国政」に関するイメージが多かった。これはテレビやニュースのイメージが強いと思われる。しかし政治が、自分達の地域や生活に身近に関わっていることを理解している児童は少ない。

自分達の学区については、最近人口が増えてきたニュータウン地区のため、昔から住んでいる住民は少ない。大型商業施設や駅が近いといった利便性については理解しているが、この地域の伝統行事等についての理解は低く、地域への愛着も比較的薄い。

このような児童の実態から、地域教材を取り入れて、自分達の住んでいる地域について理解させる。

また、ゲストティーチャーの活用や地域発信の活動を取り入れた学習を進めていくことによって、政治の仕組みへの理解が深まると共に、地域や社会の課題を自分事と捉えられるようになり、社会参画力の基礎が育つだろうと考え、本研究主題を設定した。

3 主題について

社会参画力の基礎について

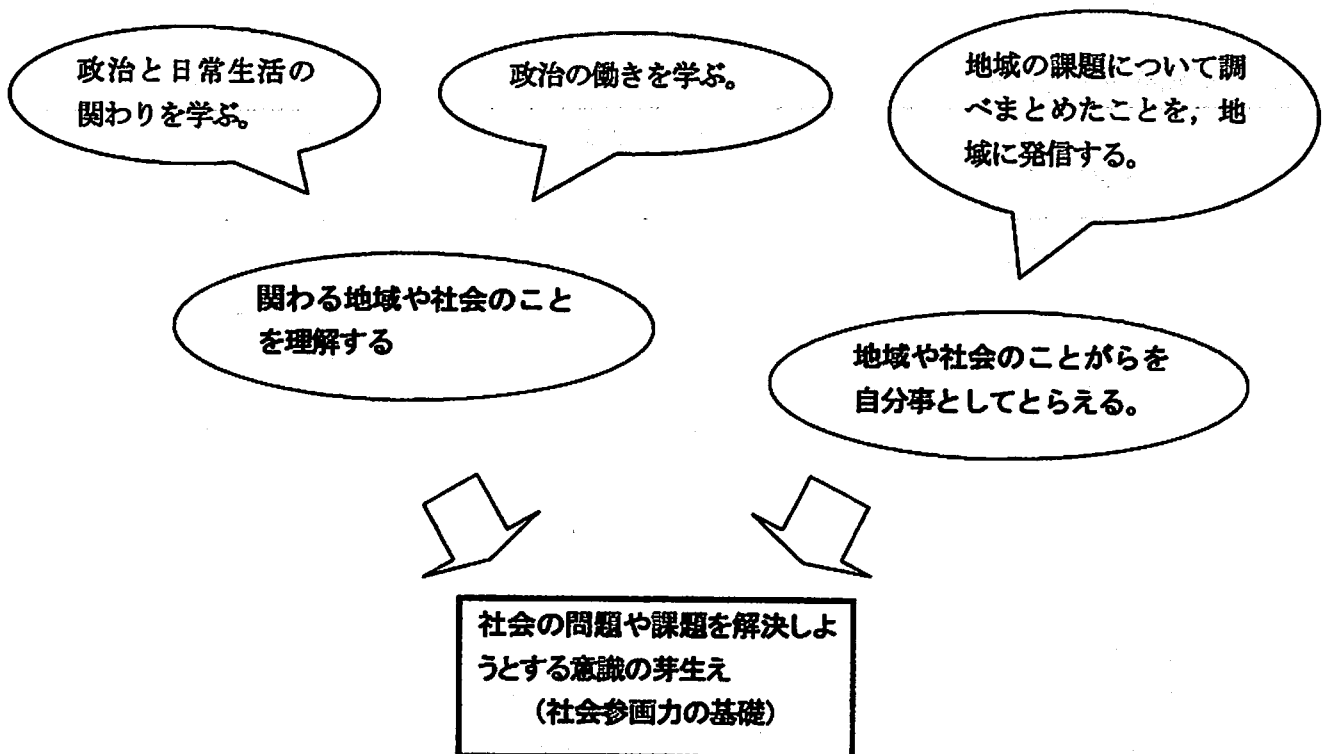
社会参画力とは、「よりよい社会のあり方を考え、その実現のために知恵を出し合い、様々な人たちと共に行動しようとする社会的実践力」のことである。

(社会科教育平成 26 年 10 月号 明治図書 北俊夫氏 2014 年)

社会参画力を身に付け発揮させるためには、

- 1 関わる対象である社会のことを理解すること
- 2 社会のことがらを自分事として捉えること が必要である。

上記のことを経て、社会がわかるようになると、社会の問題や課題に気付き、それらを解決しようとする意識が芽生えてくる、その芽生えが「社会参画力の基礎」となる。



4 研究の目標

政治学習において、地域開発と政治との関わりを調べたり、地域の人に調べたことや考えたことを発信したりすることを通して、政治の仕組みへの理解を深めさせると共に、地域や社会の課題を自分事として捉えさせ、社会参画力の基礎を培うことに有効であることを、実践を通して明らかにする。

5 研究仮説及び手立て

【仮説1】

地域素材を教材化すれば、地域や社会の課題を自分の身近な問題として捉え、社会参画力の基礎が育つであろう。

手立て 地域のフィールドワーク

児童が住んでいる印西市は、東洋経済新報社が発表している「住みよさランキング」でここ数年全国一位を取り続けている。児童の学区となっている「千葉ニュータウン中央駅」周辺は、今なお人口が増加し続け、市内でも特に「住みやすい」と認識されている地域の一つであるといえる。

千葉ニュータウン中央駅周辺が住みやすい理由を、実際に駅周辺を歩き回らる中で、自ら見つけたり感じたりさせる。その体験を通して、地域への興味・関心が深まるとともに、「より住みやすい」地域にするための課題に気づき、自分との関わりをもって考えるであろう。

【仮説2】

ゲストティーチャーを活用すれば、政治の仕組みへの理解が深まり、社会参画力の基礎が育つであろう。

手立て ゲストティーチャー

千葉ニュータウン中央駅周辺は、計画的な都市開発が行われていて、市民の想いがその町づくりに反映されている。本研究では、共同溝や駅周辺の開発に詳しい外部人材に話を聞く機会を設ける。地域の町づくりについて、直接関係者から説明を聞くことで、地域開発への理解を深められると考える。また、住みやすい町にしたいという市民の想いが実際に形になるために、「政治」が行われていることについて、地区在住のゲストティーチャーに話を聞く。政治は、我々の願いをかなえることであり、また地域開発にも深く関わっていることを知る中で、政治の仕組みへの理解が深まり、社会参画力の基礎が育つと考える。

【仮説3】

地域発信の活動を行えば、地域や社会の課題を自分事として捉え、社会参画力の基礎が育つであろう。

手立て① 街頭インタビュー

千葉ニュータウン中央駅周辺を「より住みやすくする」にはどうしたらよいだろうかという課題をもち、調べまわめていく。実際に地域の人にインタビューを行うことで、地域の課題を自分事として捉えることができ、社会参画力の基礎が育つと考える。

手立て② 地域をより住みやすくする方法の発信

千葉ニュータウン中央駅周辺を「より住みやすくする」にはどうしたらよいだろうかという課題について、調べまわめたことを、ゲストティーチャー（政治について話していただいた方）に発信する。ゲストティーチャーには、実際にその方法が有効かなどを話していただくことで、自分のアイデアについての評価をしてもらう。

その活動の中で、地域の課題を自分事として捉えることができ、社会参画力の基礎が育つと考える。

6 研究構造図

目指す児童像

○社会をより良く変えるために、自分にできることを考えたり話し合ったりし、実際に行動しようとする子

変容の願い

自分の地域や社会に関心を持ち、地域や社会の問題を身近な課題と捉えることができる。

政治の働きや政治と日常生活との関わりについて調べ、政治の仕組みへの理解を深めることができる。

地域の人に、調べたことや考えたことを発信し、自分の地域や社会の課題を自分事と捉えることができる。

手立て

- ・千葉ニュータウン中央駅周辺の開発について知り、「なぜ住みやすい地域なのか」、「さらに住みやすい地域にするにはどうしたらよいか」ということについて関心をもたせる。
- ・政治の働きや千葉ニュータウン中央駅周辺の開発と政治の関わりについて、ゲストティーチャーから話を聞くことで、政治の働きは、日常生活と関わりが深いことに気付かせる。
- ・「千葉ニュータウン中央駅周辺をより住みやすくするにはどうしたらよいか」という課題を取り上げ、地域の方にインタビューして、調べたりまとめたりさせる。
- ・調べたことやまとめたことを、地域の方に発信する場を設定する。

研究主題

社会参画力の基礎を培う社会科学習のあり方
～第6学年 わたしたちの生活と政治（千葉ニュータウン中央駅周辺の開発）を題材として～

主題を支える学力

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
・政治の働きに関心をもち、意欲的に調べようとする。	・社会的事象の意味をより広い視野から考えたり、調べたことや考えたことを表現したりする。	・社会的事象を具体的に調査するとともに、各種の基礎的資料を効果的に活用する。	・日常生活における政治の働きを理解できるようにする。

7 研究実践

(1) 単元名 「わたしたちの生活と政治」

(2) 単元計画 (19時間扱い) と期待する変容の姿

学習過程 (時数)	○主な学習内容	期待する変容の姿
つかむ (2)	○印西市は「住みよさランキングで5年連続日本一であること」「特に千葉ニュータウン中央駅周辺の人口が増えていること」を知り、この地域(学区周辺)に、人が集まる理由を考える。 ○学習問題を立てる。 ④千葉ニュータウン中央駅周辺が住みやすいのは、どんな秘密や工夫があるからだろうか。	東洋経済新報社が発表している「住みよさランキング日本一の記事」や「小倉台小学校の児童数の変容」などから、千葉ニュータウン中央駅周辺は児童数が増えている、住みやすい地域であることを理解する。
調べる (4)	○千葉ニュータウン中央駅周辺を実際に歩いて調べる。 ○駅周辺には共同溝があるなど計画的に町づくりが行われたことを知り、関係者から工夫や思いなどの話を聞く。 ○ゲストティーチャーから、千葉ニュータウン中央駅周辺の開発には「地域の人々の思い」と「政治」が関わっていることを聞く。 ○調べたことを整理する。	フィールドワーク及び共同溝についての聞き取り調査を行う中で、 千葉ニュータウン中央駅周辺には、安心・快適・便利の観点から、たくさんの素晴らしい特色があることに気付く。 安心 警察官 ガードマン 防犯カメラ 快適 広い道路 憩いのベンチ 自然豊かな公園 便利 共同溝 電車 イオンなど商業施設 なぜ、こんなことが実現するのか。 ・ゲストティーチャーから、政治の仕組みについて話を聞き、市民が願う住みやすい町をつくるには、市議会や市役所など、政治の働きが深く関わっていることを理解する。
まとめる (1)	○学習問題について調べたことをまとめる。 ⑤千葉ニュータウン中央駅周辺は、住みやすくするために、安心・快適・便利のポイントから計画的に開発を行っている。なぜそのような計画的な開発が行えたかという点、市議会など政治の働きによって、地域の人々の願いを取り入れながら進められたからである。 ○学習の感想を書く。	
つかむ (1)	○国の政治や日本国憲法が私たちの暮らしにどのように関わっているかについて話し合い、学習問題を立てる。 ⑥国の政治や日本国憲法は、私たちの暮らしにどのように関わっているのだろうか。	

調 べ る (5)	○国会の働きについて調べる。 ○内閣の働きについて調べる。 ○裁判所の働きについて調べる。 ○日本国憲法の特徴について調べる。	
ま と め る (1)	○学習問題について調べたことをまとめる。 ④国会、内閣、裁判所がお互いに関わり合いながら、国の政治が行われている。また日本国憲法の特徴は、基本的人権の尊重、国民主権、平和主義である。日本国憲法は、私たちが安心して幸せに暮らせるような基本であり、それを元に国の政治が行われている。 ○学習の感想を書く。	
広 げ る (5)	○千葉ニュータウン中央駅周辺をより住みやすくするためには、どうしたらよいかを考えて話し合う。 ○保護者や地域の人に、意見を聞く。 ○調べたことをまとめる。 ○ゲストティーチャーに、まとめたことを発信し話し合う。 ○学習の感想を書く。	千葉ニュータウン中央駅周辺をより住みやすい地域にするためにどうしたらよいかについて、地域の方にインタビューを行う中で、地域の方の思いを知り、より良い地域にする方法に気付く。 ・国道464号のバイパスの出口をもっと増やしてほしい。 ・幼稚園や保育園をもっと増やしてほしい。 ・横断歩道の歩行者信号の青の時間をもっとのばしてほしい。 ・コンサートができるような文化施設があったら便利。 ・交番や警察署が少ないので、もっと増えると治安ももっと良くなると思う。 その中でも意見の多かったものを発信 ・北総線の本数を増やしてほしい。 ・幼稚園や保育園の数を増やしてほしい。 ・病院の数を増やしてほしい。 ・場所によっては、暗くて危ない場所もある。街灯の数を増やすなどしてほしい。 ・高齢化社会の中で、老人ホームなどの施設が少ない。施設数を増やしてほしい。 ・大きい道路の制限速度をもっと制限すると、交通事故も減り、安全になるのではないだろうか。

(3) 仮説に関する授業の実際

第1時

みんなの住んでいる印西市は、「住みよさランキング」でなんと5年連続一位。その中で、児童数が増えている小倉台地区は、その中でも特に住みやすい地区と考えられるのではないかな。



どうして、千葉ニュータウン中央駅周辺は住みやすい地域なんだろうかな。

第3時

フィールドワーク

実際に駅周辺のフィールドワークを行った。千葉ニュータウン中央駅周辺には、どんな良さがあるかを確認したり、新たに発見したりすることができた。



イオンやたくさんのお店があることも理由の一つじゃないかな。

- ・防犯カメラ
- ・防犯の看板
- ・休憩用のベンチ
- ・公園
- ・電車
- ・案内板
- ・ソーラーパネルなど

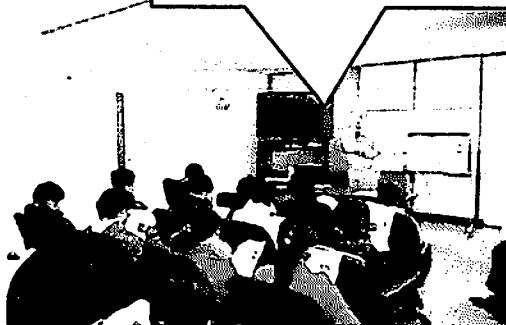


こんなにたくさんの看板があるなんて知らなかった。これも「住みよさ」の秘密の一つじゃないかな。

第4時

共同溝の話

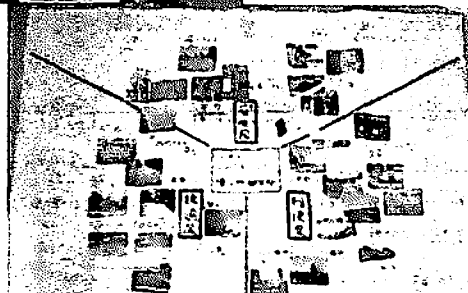
共同溝は、千葉ニュータウン中央駅周辺の地下にある大きな空洞で、その中に電線や水道管などほぼ全てのライフラインをまとめてあります。



自分達の地域に、共同溝があるなんて知らなかった。工事をする時に、たしかに便利だね。

第5時

休憩用の机とベンチがありました。疲れた時に休める、便利なものだと思います。



千葉ニュータウン中央駅周辺がなぜ「住みやすい」といわれるのか、その理由がよくわかった。

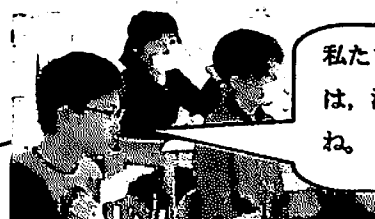
第6時

ゲストティーチャーの話

こんな町にしたいという想いは、まず市役所に要望したり、市議会に請願したりします。



なぜ、このような事が実現するのだろうか。



私たちの願いと政治の働きは、深い関わりがあるんだね。

第15時

千葉ニュータウン中央駅周辺を、さらにより良くするにはどうしたらよいのか調べて、私に教えて下さい。



- ・幼稚園や保育園をもっと増やしてほしい。
- ・横断歩道の歩行者の待合時間を長くしてほしい。
- ・コンサートができるような、文化ホールがあるとよい。
- ・交番や警察署が増えると、治安がもっとよくなる。
- ・市の循環バスの最終バスがもっと遅くなるとよい。
- ・国道464号のバイパス出口がもっと増えると、便利になる。

第16時

街頭インタビュー

小さい子どもがいると、待合時間がすぐ点滅すると渡りにくい。もっと横断歩道の待の時間が長いと良いと思います。



地域の人に直接聞くと、今まで感じなかった「想い」が良く伝わってくるな。

第17時

たくさんの意見がでたので、地域の方から意見の多かったものでまとめよう。



- ・北総線の電車の本数を増やしてほしい
- ・病院の数を増やしてほしい。
- ・大きい道路の制限速度を厳しくしてほしい。
- ・老人ホームのような施設を増やしてほしい。
- ・幼稚園、保育園の数を増やしてほしい。
- ・地域の街灯を増やしてほしい。



第18時

ゲストティーチャーへの発信

地域の方に聞いたところ、こちら辺の人はほとんどが電車通勤なので、小さい子どもを持っているお母さんの子どもの送り迎えを楽にするために、駅の周りに幼稚園や保育園をつくったほうが、より便利で良い町になるとおっしゃっていました。幼稚園や保育園を増やすことはできないのでしょうか。



より良い地域にするためにも、幼稚園や保育園を増やすことは大切な事です。保育園をつくるかどうかは市が、幼稚園をつくるか県が決めています。ちなみに、今年中に地域に新しく保育園が2つできる予定です。

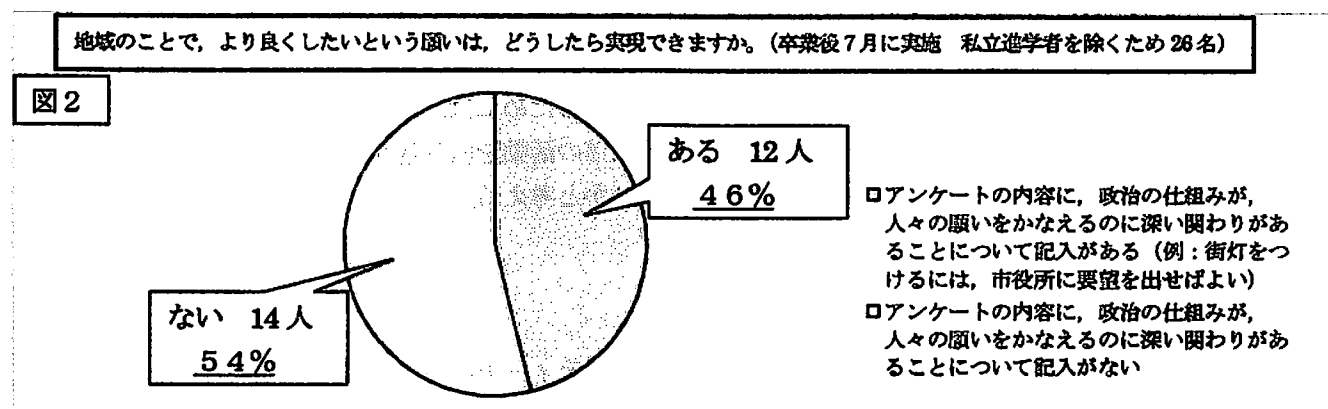
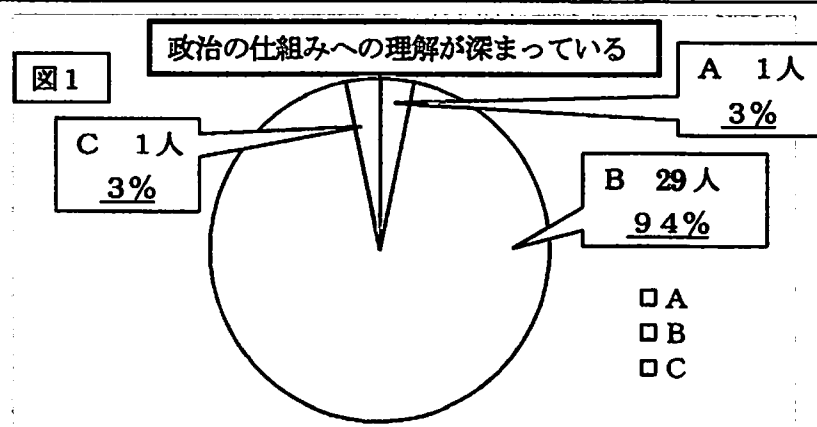


8 仮説の検証

検証方法は、ノートの記述や授業後に児童が書く感想、ゲストティーチャーへの感想をもとに、「政治の仕組みへの理解が深まっている」「地域や社会の課題を自分事として捉えている」かについて以下の評価基準で分析する。

【政治の仕組みへの理解が深まっている】 評価基準（ノート・授業後及びゲストティーチャーへの感想）

	評価基準	文例
A	政治の仕組みが、人々の願いをかなえるのに深い関わりがあることを理解している。	「地域をより良くしたい時は、市役所や地域の市議会などをお願いすればよいことがわかった。」
B	政治の仕組みと、自分達の地域や社会が関係していることを理解している。	「市民の願いは、市役所や市議会を通して実現されていることがわかった。」
C	政治の仕組みについて理解している。	「この学習で、市役所や市議会の働きがわかった。」



【考察】

ほぼ全ての児童が、AもしくはB評価に達している結果となった（図1）。これは、具体的なフィールドワークを通して地域の課題をつかみ、ゲストティーチャーの話から、政治の仕組みへの理解を深めたことが大きい。

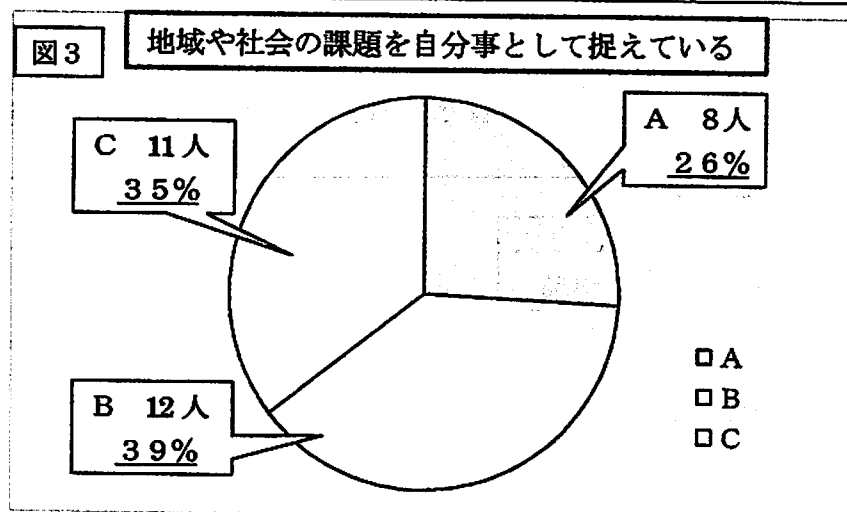
この時点で、A評価に達している児童は少なかったが、中学校に進学した後にアンケートをとったところ（図2）、内容がA評価に達している回答児童が約半数いた。これは、この学習を通して政治についての理解が着実に深まり、意識の中に根付いていたため、中学生になった時に割合が上がったと考えられる。

選挙法の改正により、18歳から選挙権が与えられている現在だが、思ったより投票率は上がっていない。

今回の様な授業を、小中連携して行っていくことで、児童・生徒の選挙への理解や関心が高まり、今後投票率の改善にも繋がっていくのではないだろうか。

【地域や社会の課題を自分事として捉えている】評価基準（ノート・授業後及びゲストティーチャーへの感想）

	評価基準	文例
A	地域や社会の課題を自分事と捉え、それらを解決しようとしている。	「自分達の地域の課題が分かったので、自分達でより良くしたい。」
B	地域や社会の課題を自分事として捉えている。	「自分達の地域に〇〇のような課題を知り、改善しなくてはいけないことがあると思った。」
C	地域や社会には課題があることを捉えている。	「自分達の地域は〇〇のような課題があることを知った」



【考察】

65%の児童が、AもしくはB評価に達していた（図3）。これは、街頭インタビューを通して、地域の人の願いや想いを知ることができたからである。さらに、想いをまとめ、他者に伝える活動を取り入れることにより、「知ること」が地域や社会の課題を自分事として捉え、問題解決への行動の導きにつながっていく。

しかし、C評価の児童も35%存在する。この割合を下げるためには、本研究のような、フィールドワーク等、五感を駆使した、正しい地域理解に基づく、地域発信の活動を繰り返すことが必要である。それによって、AならびにB評価の割合も増加していくのではないかと考える。

9 成果と課題

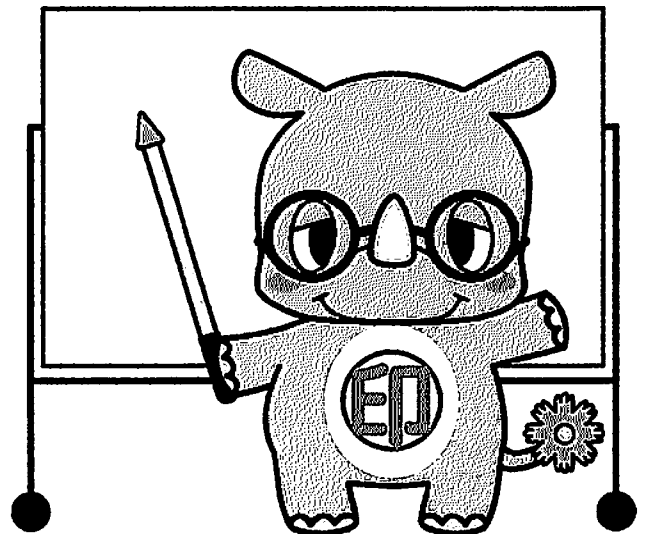
<成果>

- ・フィールドワークを行い、地域に目を向け、さらにゲストティーチャーから、我々の願いと政治との関わりについて詳しく話を聞くことで、自分達の生活と政治の仕組みの関わりについての理解を深めることができた。また、政治の仕組みが人々の願いをかなえるのに深い関わりがあることも合わせて理解することができ、社会参画力の基礎を育てる事ができた。
- ・自分達の住んでいる地域をより良くするためにどうしたらよいかという課題について、地域の人の想いをまとめたり、まとめたことをゲストティーチャーに発信する活動を行ったりすることで、地域の課題を自分事と捉えることができ、社会参画力の基礎を育てる事ができた。

<課題>

- ・今回の研究を通して、地域や社会の課題及び政治に興味・関心を持ち、課題があることを理解することはできた。しかし、それらの課題を自分事として捉えるには至らなかった児童も4割近くいた。この割合を下げるためには、本研究のような、フィールドワーク等、五感を駆使した、正しい地域理解に基づく、地域発信の活動を繰り返すことが必要である。

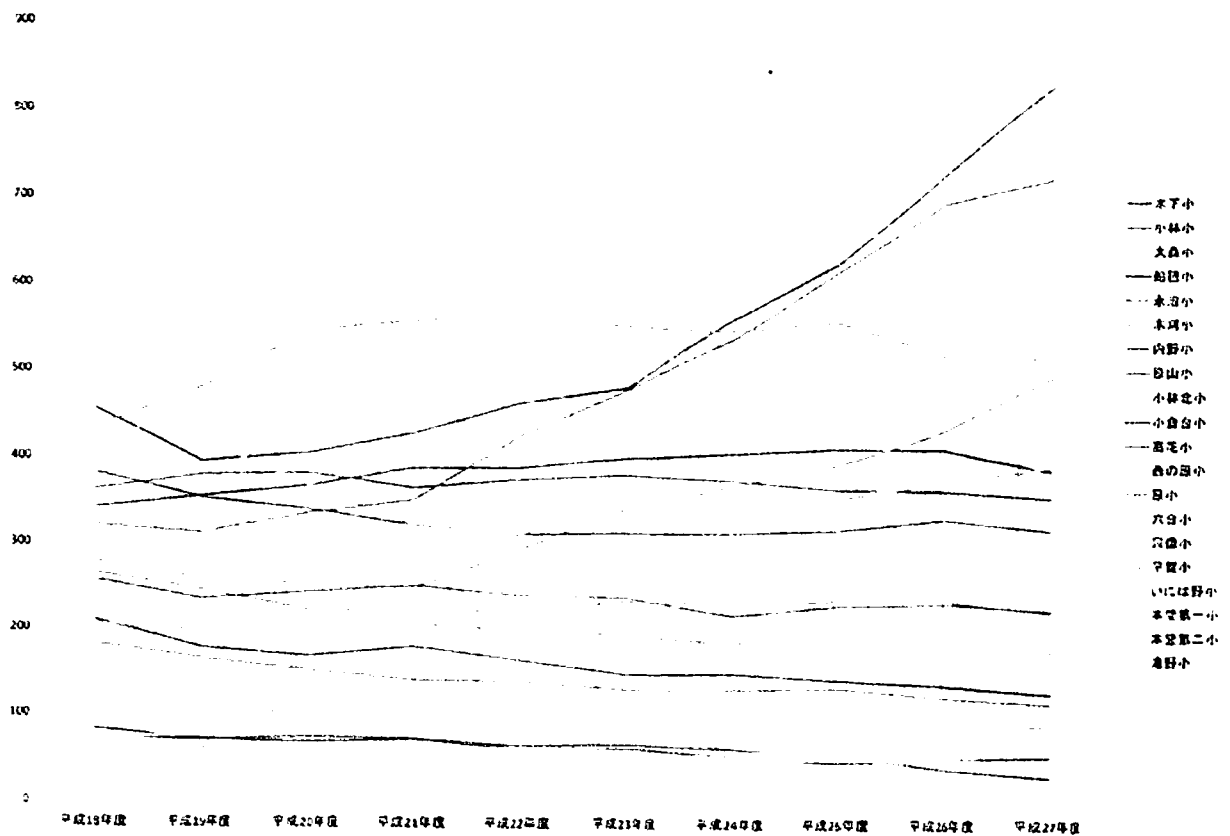
資料編



資料1 第1時：住みよさランキングの記事と印西市内小学校の児童数変容グラフ

最新！「住みよさランキング2016」トップ50

トップ50の住みよさランキング



資料4 第17時：ゲストティーチャーへ発信するためのメモや原稿

(上段：メモ 下段：原稿)

横断歩道の青信号の時間を延ばしてほしいグループ

社会科学習 提案書作りワークシート

6

8

提案のテーマ

横断歩道の青信号の時間を延ばしてほしい

理由

子ども連れやベビーカーの人、お年より荷物を持った人には、青の時間が短いから。

具体的な内容など

大塚前の歩行者信号が今は緑8秒だが、緑8秒くらいにしてほしい。

（具体的な内容など）

提案書作りに役立つようなことをメモする欄

大塚前→①18秒②18秒 伊勢前→①27秒②22秒
（伊勢前）
アルカ前→①23秒②22秒 大塚前→①17秒②19秒
（伊勢前）

私たちの提案について原こう

千葉NT中央駅周辺の信号は、このあたりの交通を楽にしてくれそうです。利用するとより便利になると思いますが、信号が青の時間が短いという意見が多くありました。特に大塚前公園付近の信号が短く困っている人がいました。調べてみると、他の信号2つと大塚前公園にイオン側から行く2つの信号で、平均55秒も大塚前公園の信号の方が短いと分かりました。これは、荷物を持っている人や子ども連れ、ベビーカーをひいている人にとって、とても不便です。どうか、信号の青の時間を延ばしていただけませんか。

病院を増やしてほしいグループ



社会科学習 提案書作りワークシート

6

8

提案のテーマ

病院を増やす。つくる！

理由

病院が遠くて困る。
急ぎのとき待つ時間が長くて困る
急体のときに

具体的な内容など

耳鼻科 つくる 駅周辺に！
小児科 増やす
眼科 増やす
皮膚科 増やす
産婦人科 つくる

提案書作りに役立つようなことをメモする欄

いろいろな種類（小児科、小児科...）の病院を。
(提案)
千葉ニュータウン中央駅の周辺は、病院が各地に散らばっていて便利ですが、（内科や歯医者）は多くて、耳鼻科や眼科、小児科などは夜間病院が少ないです。このような病院が少ないため、急体のときや急いでいる時に困ってしまいます。これでは安心できません。このように病院が駅周辺に増え、と、住民にとってより安心に暮らすことができると思います。耳鼻科や眼科、小児科などと夜間病院を増やすことができないのでしょうか。

資料5 仮説の検証【政治の仕組みへの理解が深まっている】評価A・Bの児童感想等

評価基準A：政治の仕組みが、人々の願いをかなえるのに深い関わりがあることを理解している。

児童A 学習終了後まとめの感想

学習「わたしたちの政治と生活」が終わりました。学習を振り返り、感想を書きましょう。

千葉ニュータウン駅周辺や政治を学ぶきっかけになり、もっと知りたくなった。
千葉ニュータウン駅周辺をもっと良くしたい時は、市役所や市議会にお願いすればよいことがあった。

評価基準B：政治の仕組みと、自分達の地域や社会が関係していることを理解している。

児童B・C 第6時の学習のまとめ

- ② 市民の願いは市役所に要望や市議会に請願したりして市議会議員が市議会では話し合い実現している。
- ③ 市民の願いは、市役所や市議会をとおして、みんなで話し合った結果、実現された。

社会科学習ふりかえりカード

児童D 毎時間の一言ふりかえり

6年 2組1

☆毎時間の学習で、思ったこと・気付いたことなどを簡単にまとめましょう。

日にち	ふりかえり
1/30	印西市の住みやすが、グラフや表をとおしてよくわかった。
1/31	様々なところにいて、さらにすみやすいまちをじかんした。
2/1	安全や利便についてはしらべていたけれど、他の班のは、わすれ、はじめていたことあった。
2/2	共同ことは、始めてした事だったけれど、1日でよくわかった。
2/6	市民の願いは、市役所や市議会の苦勞によって実現されていることがわかった。
2/7	この6日間をとおして、身のまわりの政治の仕組みがわかった。

資料6 仮説の検証【地域や社会の課題を自分事として捉えている】評価A・Bの児童感想等

評価基準A：地域や社会の課題を自分事と捉え、それらを解決しようとしている。

児童E 学習終了後まとめの感想

学習「わたしたちの政治と生活」が終わりました。学習を振り返り、感想を書きましょう。

政治は私たちの生活に関わっているけれど、私たちはまだ子供だし、どうせ
たくい人の権利者がいるので私たちは政治にあまり関係がないと思っていました。
しかし、今回の学習では、たくい人の人にアンケートをとり、自分たちの意見もとってもらい、
まとめ、実際に政治に反映されると思いがけずかっていたので、
私たちは政治に関わるべきと感じました。これから、国会・内閣・裁判所などにも
選挙などで関わるので、これから政治の勉強をしたいと思います。

児童F 学習終了後まとめの感想

学習「わたしたちの政治と生活」が終わりました。学習を振り返り、感想を書きましょう。

自分からたんに生きている市の中の千葉ニュータウン周辺は住みやすさランキング日本一になるために重要だということから始めて自分の知らなかったことやわしし分かったことがたくさんあり細川先生の授業が受けられてとてもうれしく思った。また自分で千葉ニュータウン周辺を言回ってみたい。そして、もとよりよい千葉ニュータウンにしていきたい。

本日の社会科学習の感想を書きましょう。

児童G ゲストティーチャーに政治の話を聞いた日の感想
(第6時)

...さんに貴重なお話を聞けなかったです。今後も印西市がどうしたら良い市になるかを考えながら市にイ主人でる人に少しでも役に立てるように少しでもできることがあったらいいと思いました。提案したことは市議会の方ならすぐかなえられるかと思ったけど果や国が協力してるのだと思いました。

評価基準B：地域や社会の課題を自分事として捉えている。

児童H・I ゲストティーチャーに政治の話を聞いた日の感想 (第6時)

本日の社会科学習の感想を書きましょう。

お忙しいのに千葉NT中央駅周辺の事について、いろいろ教えてもらいとても良い経験ができたと思いました。

もっとより良く千葉NTが住みやすくなればとても良い街になると思いました。

街の人にいろいろ聞いてまだまだかい善しないといけな
いところもある事がわかりました。

本日の社会科学習の感想を書きましょう。

印西市には、いいところもあるあればわるいところもあるということがわかりました。いいところでは、でんちゅうが少ないことや公園が多いことです。わるいことでは、マンションや一軒家の周辺はでんちゅうが少ないということです。たしかに、家の周りは、暗いのででんちゅうがふえるといいてす。

資料7 中学校で行ったアンケート原本

小倉台小学校元6年2組のみなさんへ

平成29年7月3日

小倉台小学校 細川大志

社会科のアンケートのお願い

小倉台小学校元6年2組のみなさん、お元気ですか。中学校生活では、勉強に部活にと活躍していることと思います。さて、今年2月頃の社会科の学習では、ゲストティーチャーに話を聞いたりし、私たちの生活と政治について学習しましたね。あれから中学生になったみなさんの考えについて、アンケートにご協力をお願いします。うまく書けない部分は、空白でもかまいません。

※その時の授業の流れを忘れてしまった人のために、だいたいの学習（活動）を裏面に掲載しました。

元6年2組 名前【

】

- 1) 政治のニュースに関心がある（あてはまるもの一つに○）。

とてもある ・ まあまあある ・ あまりない ・ まったくない

- 2) 小学生の時と比べて、政治が身近に感じられる（あてはまるもの一つに○）。

とてもある ・ まあまあある ・ あまりない ・ まったくない

- 3) 印西市は「住みよさランキング」で6年連続日本一になりました。さて、この地域（印西市や千葉ニュータウン中央駅周辺）のことで、みなさんが何かこうしたい（良くしたい）と思うことを書いて下さい（記述式）。

例) ○○の場所では交通事故が多いので、ガードレールを新しく設置したい。

- 4) 3) で書いた「何かこうしたい（良くしたい）」という願いは、どうしたら実現できますか。（記述式）

だれが・何を・どうしたらよいか をキーワードに

ありがとうございました。

資料8

仮説の検証 中学校実施のアンケートにおいて「政治の仕組みが、人々の願いをかなえるのに深い関わりがあることについて記入がある」生徒の回答

生徒1

例) ○○の場所では交通事故が多いので、ガードレールを新しく設置したい。

小倉図書館周辺は街灯が少ないので、暗い。
安全のため街灯を設置したら良いと思う。
(明るくするため)

4) 3) で書いた「何かこうしたい(良くしたい)」という願いは、どうしたら実現できますか。(記述式)

だれが・何を・どうしたらよいか をキーワードに

自治体や団体などに「〜 欲しいので、市役所に要望して欲しい」と言う。活動に協力する。など

生徒2

例) ○○の場所では交通事故が多いので、ガードレールを新しく設置したい。

近年、人口が増えるにつれ、小さい子供を増え続けているので、保育園や幼稚園の待機児童がたくさんいる。(うちの弟が待機児童になっちゃった)
なので、保育園、幼稚園の数を増やしてほしい。

4) 3) で書いた「何かこうしたい(良くしたい)」という願いは、どうしたら実現できますか。(記述式)

だれが・何を・どうしたらよいか をキーワードに

市議会議員に要望する。
市議会議員に話せばよい。

生徒3

例) ○○の場所では交通事故が多いので、ガードレールを新しく設置したい。

・小倉台地区で、暗いところが多いので、街灯を増やしたい。
・戸田公園の周りで、ボールが車道に出ることが多いので、フェンスをつけるといい。
(安全のため)

4) 3) で書いた「何かこうしたい(良くしたい)」という願いは、どうしたら実現できますか。(記述式)

だれが・何を・どうしたらよいか をキーワードに

・市議会議員に「街灯を増やしたい」と要望する。

・市役所に「フェンスを増やしたい」と要望する。

生徒4

例) ○○の場所では交通事故が多いので、ガードレールを新しく設置したい。

不始末や事故が多いので、街灯や交番を増やしてほしい。
(暗い場所)

4) 3) で書いた「何かこうしたい(良くしたい)」という願いは、どうしたら実現できますか。(記述式)

だれが・何を・どうしたらよいか をキーワードに

市議会に、持って行ってぎゅんしてもらう。
警察官がパトロールを強化する。(とくに夜)

資料9 毎時間行った一言ふりかえりカード

社会科学学習ふりかえりカード

6年 2組 1

☆毎時間の学習で、思ったこと・気付いたことなどを簡単にまとめましょう。△…反省が必要

日	日	反省
1/30	○	初めての授業だったけど最後まで楽しんで学んだ。
1/31	△	グループの一部の人の怪しい行動がめだった。
2/1	○	きのうの反省を生かしてみんな協力して活動できた。
2/2	○	今日はみんな学習に関係の無い所に行けてうれしかった。
2/6	○	市議会議員の方に知りたいことを質問できてうれしかった。
2/7	○	今まで学習してきたことをうまくノートにまとめられた。
2/8	○	日本についてたくさんさんの意見ができて楽しかった。
2/11	○	ビデオでわかりやすく説明されていてよくわかった。
2/13	○	すこしねまぐて集中してできなかったけど、あしたはがんばると思った。
2/14	○	自分の意見のみんなの前で発表できてよかった。
2/15	○	まとめようと思ったことをまとめることができた。
2/17	○	
3/1	○	あんまり発言することができなかったけど、今後の外へ行く活動が楽しみでワクワクしています。
3/3	○	学校ですごくいい事を思い出してうれしかった。
3/8	○	みんなの意見をきいておもしろかったです！
	○	班で協力し、分担して地域の人に意見をききこむことができてよかった。

資料10 参考文献

- ・「小学校学習指導要領解説」文部科学省 平成20年
- ・「小学校 新学習指導要領の展開 社会科編」北俊夫・片上宗二編著 明治図書 平成20年
- ・「社会参画と社会科教育の創造」唐木清志・西村公孝・藤原孝章著 学文社 平成22年
- ・「新版 社会科教育事典」日本社会科教育学会編 ぎょうせい 平成24年
- ・「社会科教育 2014年10月号」明治図書 平成26年